

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

連番	722	例会No.	一般478	内容	ベーシック登山No. 38 多武峰 談山神社～明日香の里へハイキング	実施年月日	2016/11/6	担当者	山倉、翁長	
参加者	山倉康次、翁長和幸、西村晶、安本昭久、安本嘉代、村木とも子、村木正人、神阪洋子、青木義雄、小川眞裕美、和田都子、寄川都美子、梅田寛子、池田える子、藤田喜久江、岩本和行、野口秀也								参加者数	17
担当者コメント	コースは談山神社経由で御破裂山に行く予定でしたが(今年正月に来たときはフリーパスでした)入山料の看板があり社門前を通過して、西側の古寺横からそれらしき道をたどると三十分ほどで本日の最高峰、御破裂山(607.4m)に到着、藤原鎌足の墓所に全員参拝し展望台に行ってみるがあいにくの曇天で展望は望めませんでした。この時期、紅葉を期待しての企画でしたが、ちょっとまだ早いようで、今月末ごろになりそうです。明日香方面へは、道標を頼りに念誦岬(ねずき)不動尊へ、スギやヒノキの植林の中を歩き分岐点から左へ万葉展望台で昼食休憩、金剛葛城から二上山の稜線を眺め明日香の里へしばらく急下降すると立派な柿畑の田舎道を経て石舞台に到着しました。飛鳥駅までは、由緒正しい田舎風景をネタにおしゃべりを楽しみました。 記:山倉									
連番	723	例会No.	OP235	内容	岡山県・星山～櫃ヶ山、三ヶ上山+アルファNo. 18	実施年月日	2106/11/12～13	担当者	小椋(勝)、板谷	
参加者	小椋勝久、板谷佳史、黒澤百合子、小川眞裕美、村木とも子、村木正人、保木道代、青木義雄、寄川都美子、和田都子、和田敬子、和田良次、藤田喜久江、上原進一、神阪洋子、梅田寛子、池田える子、大森朋江、佐藤敏子、三原博子、岩本和行								参加者数	21
担当者コメント	<p>11月12日 11月だと言うのに暖かい日が続く紅葉はまだ見ごろとか。中国道を西に走り院庄インター経由で上斎原村へ上斎原振興センターにバスを駐車し三ヶ上山への登山を始める。村中を歩き杉木立の林道へ、薄暗い林道を抜けると明るい登山道が現われる。登山道は2列でも歩けるような登山道でよく整備をされていて紅葉も終わりかけだがまだ見頃、バスの長旅にも関わらず皆わいわいとしゃべりながら登るが、最初の予想と違って暑い、皆さん防寒仕様の服装なので汗を掻きながらの登山となった。頂上直下の登りを汗を掻きながら登り振り返ると紅葉の中国山地の山々が見渡す限り続いていた。その景色の雄大さに皆さん疲れも何処へやら、三ヶ上山は修験道の山で山頂には役行者の石仏がひっそりと佇んでいました。山頂で昼食を取り三角点へ向かう。地図上では三角点がある山が三ヶ上山となっているが石仏のある方が高い、たぶん地元の人が高い方を三ヶ上山と言っているのではと考えながら歩く。三角点でしばらく山々を眺めてから下山し泊地へと向かった。プラスαは今年は例年になく季節がずれ込み山の幸がなくその代わりに天然アユの塩焼き、てんぷらに舌鼓を打ちました。</p> <p>11月13日 今日の行程は長丁場になりそうなので出発を早めにして、目的地へ向かう。鏡野町から真庭市に入り国道313号線から神庭の滝方面へ。曲がりくねった道を小一時間走ると美しい森公園に着く、ビジターセンター近くで下車し準備を済ませ9時頃から歩き始める。星山への登山道はよく整備されて登りやすく、迷う心配もない。通常は1時間程度だが、休憩を取りながら1時間20分ほどで山頂へ。山頂に着くと目の前に蒜山三座と大山が現われる。こんな風に大山を見るのは初めてのなどの言葉が彼方此方から聞こえてくる。休憩もそこそこに歩き始め紅葉の山々を眺めながら快適な縦走路を櫃ヶ山へ。途中五輪山で昼食を取り1時半ごろ櫃ヶ山に着く、縦走路からは大山が常に見えていたが櫃ヶ山で大山と別れ下山を開始する。下山道は長い下りでガイドブックには1時間半と書いてある。その下山道をひたすら下り、足が棒になるころに国道が見えてくる。 やっとの思いで下山しバスに乗り帰途についた。皆さんのおかげで 天候に恵まれ充実した2日間を過ごすことができました 記:小椋(勝)</p>									
連番	724	例会No.	一般479	内容	大和葛城山	実施年月日	2016/11/13	担当者	紀伊壱本(節)、西村(晶)	
参加者	紀伊壱本節雄、西村晶、安本昭久、安本嘉代、寺島直子								参加者数	5
担当者コメント	短い秋を求めて手軽にかつ手垢の付かない山があればと、葛城自然研究路を思いつきました。喧騒のすぐ隣と云ってもいい場所です。発想の転換でしょうか、結果は大当たりでした。帰路、今一つの目論みは弘川寺の西行墳でした。これを見落したことは失敗でした。裏山に縦横に走る廃道に惑わされ(登る場合はまだしも)、結果的にコンクリートを張りつめた管理道に誘導されお寺まで直行してしまいました。残念なことでした。そこで、此の裏山を存分に巡り、併せてこの地を終焉とした西行の生きざまとは如何なものか、しかるべき季節に再度例会を企画したいと思います。ぜひご賛同ください。『願はくは花の下にて春死なむ そのきさらぎの望月のころ』西行は自身の願い通り文治6年(1190年)2月16日(新暦3月)ここに没しました。 記:紀伊壱本(節)									
連番	725	例会No.	一般480	内容	大和・竜門山～御破裂山	実施年月日	2016/11/20	担当者	杉本(康)、野原	
参加者	杉本康夫、野原勇、寄川都美子、小川眞裕美、保木道代、安岡和子、小杉美代子								参加者数	7
担当者コメント	11月だというのに季節が1か月前に戻ったような温かさ。竜門岳の登りで汗だくになってしまう。山頂広場には高皇産霊神(たかみむすびのかみ)が祀られている祠と一等三角点の石標があり休憩にはちょうど良い所です。金剛・葛城の山並みが望まれるとのことですが、雲に覆われ今日は何も見ることができません。昼食で長めの休憩をしていると風も出て冷えてきたので早々と出発しました。きれいに手入れのされた明るい杉の植林の尾根を下っていくと三津峠に着き、ここから竜在峠分岐の間はあまり人が歩いていないようで踏み跡程度の箇所も出てきました。細峠には松尾芭蕉の句碑が残っていて広い道になっていますが、地形図の通り進んでいくと今度はやぶ漕ぎ状態になって竜在峠に降り立ちました。このころ雨が降り出すのが、一時的ですぐやみました。竜在峠から談山神社までは道幅も広くなり気持ち良く歩くことが出来ました。御破裂山往復を予定していたが、暗くなってしまうので談山神社までとしました。神社からバス停に向かう途中真っ赤に燃える見事な紅葉を見ることが出来、感謝感激です。 記:杉本(康)									
連番	726	例会No.	OP236	内容	若狭・青葉山	実施年月日	2016/11/23	担当者	板谷、山倉	
参加者	板谷佳史、山倉康次、小川眞裕美、保木道代、安岡和子、小椋美佐、岩本和行、村木正人、村木とも子、安本嘉代、和田都子、佐藤敏子、村浪義光								参加者数	13

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	大阪は曇り空だったが、バスが日本海側を走る頃にはすっかり雨に、風も強そうだ。東舞鶴で乗り換えたタクシーの運転手もこんな日にと感心してくれる。中山寺上の林道で待っていてくれた敦賀の村浪さんと合流する。雨中の登りに耐えて、東峰への稜線を行く頃には雨は止むが北風が強く、樹林から飛ばされる滴と合わさって手は大変冷たい。好天ならばのんびりと海景色を楽しめる稜線歩きなのだが、今日は厳しくも美しい荒波の日本海風景を十分に味わいながら東峰～西峰間の少し緊張する岩場を通過して行く。さすがに他の登山者は皆無、西国33ヶ所の松尾寺に下山しても参拝客はまばらだった。雨の止んだ参詣道をJR松尾寺駅まで歩き、一駅の乗車で再び強くなった雨脚に煙る紅葉の軍港・舞鶴に戻り、再び帰りの高速バスに乗り込みました。 記:板谷										
連番	727	例会No.	一般481	内容	葛城山系・石橋山	実施年月日	2016/11/23	担当者	翁長、小椋(勝)	参加者数	13
参加者	翁長和幸、小椋勝久、安本昭久、川崎喜美子、神阪洋子、山下登志子、青木義雄、馬場美穂子、大森朋江、西村晶、杉本康夫、笠松マサエ、小杉美代子										
担当者コメント	うすら寒い中、バスで平石集落へ。出かける前から気になっていた事がある。村なかには小道がいろいろあってコースがややこしい事。地図通りに行くが予定している道が見つからない。どうも廃道になっているようだ。最初の目安としていた堰堤まで農道をたどるが、堰堤の前で道が消失。100mほど戻り結界のような所から入っていく。コンクリート道から、笹が刈り取られた山道に入り堰堤上部を巻いて行く。これで予定のコースに入ったようだ。1時間ほど右往左往した事になる。地元の人に聞くと、以前この辺りは大洪水に見舞われ畑や田んぼが流され、その時堰堤直下の巻道もなくなったとの事であった。二つの堰堤を過ぎた所からの尾根の取付きが分かりづらい。きつい登りが始まる。鍋石、釜石と書かれた小さな案内板に従い横道に入る。大きな石が点在している中に、鍋石・釜石と書かれた大石が現れた。鍋・釜とは連想しがたい石である。ここは行場らしく修行をしたあかしとして、木札が置かれていた。この木札のことを碑伝(ひで)と云うらしい。ここより左側を巻きながら登った為、鋭立岩をパスしてしまった。いよいよ本日のメイン・イベント「久米の岩橋」に着いた。幅は1m位、長さは1.5から2m程。長手方向の片側は割れて脱落している。自然石ではなく、あきらかに人の手によるものである。「役の行者が葛城と吉野の間に、石の橋を架けるように神々に命令し工事を始めた。しかし一言主神がサボタージュした為、怒った役の行者が一言主神を罰した。そのことを快く思わない一言主神が役の行者の悪い噂を流し、朝廷に役の行者を捕まえさせるように仕向けた。捕まった役の行者は伊豆の大島に島流しにされ、工事が中断してしまった」その名残りが、この石であると伝承されている。しかし役の行者が活躍していた1300年前から、ここに放置されているようであれば、岩角が丸くなっているように思うのだが、そうはなっていない。どこにでもある昔話のように、伝承と現実とは違うようだ。理屈をいろいろ並べるより、伝承のほうがロマンがあって楽しい。しかし、誰がいつ、何の為に作ったのか? 岩橋山頂上での昼食後、胎内ぐりの大岩へ急降下。ここも行場らしく碑伝(ひで)が置かれている。大岩が積み重なって出来た岩と岩の隙間が、胎内ぐりと云われているもの。私もお腹がつかえてヒヤッとしたがなんとかすり抜けた。ワァー・ワァー、ギャ・ギャ言いながら、みんなでチャレンジしてみた。無事通過できホッとしている人もいたようだ。尾根を西に下りモミジ谷林道から出発地に戻った。今日は歩き始めから道が無くなっていて右往左往したが、岩橋のロマンと胎内ぐりと楽しい1日を過ごした。 記:翁長										
連番	728	例会No.	一般482	内容	近江・叢作山～太郎坊山	実施年月日	2016/11/27	担当者	野原、杉本(康)	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	729	例会No.	一般483	内容	西田保、村本俊弘両氏慰霊登山 西六甲・高雄山	実施年月日	2016/12/4	担当者	紀伊莖本(節)、秋田	参加者数	24
参加者	紀伊莖本節雄、秋田文雄、小椋美佐、小川眞裕美、西村晶、横山寿夫、野口秀也、神阪洋子、江本恭子、板谷佳史、池田える子、藤田喜久江、和田都子、梅田寛子、山本京子、小椋勝久、三原秀元、岩本和行、寺島直子、保木道代、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子、榊田誠寛										
担当者コメント	今日、初めて入園した森林植物公園の隣接地(再度公園)に、外国人墓地のあることはよく知られています。尤も、よく知られていることと自分が確かに知っていることは別物で、現に大正初期?外国人居留地に住いされていたドント氏が、この瘦せ尾根のドントリッチを好んで登っておられたことから、その名が今も残されているなど全く知らなかったことです。ドント氏はおそらく、当時すでに私共と同じ山の趣向を持ち合わせておられて、失礼ながら墓参りのついでにひとり楽しんでおられた?と、これは勝手な私の想像です。神戸開港の頃の外国人居留地について少し勉強してみようかなと思います。西田保氏、村本俊弘氏の追悼登山が無事行われました。偶然ですが、両氏の人柄を偲ばれる静かなコースで本当に良かったと思います。両氏の訃報に接する前に、既にこの例会は企画されていたものへ急遽組合わせて頂きました。その上、あいにくの天気予報で今日は雨模様だ?と知らされていたなか、24名もの多くの皆さんの参加を頂きました。これは明かに両氏の人物によるものだと思います。またこれも偶然ですが、両氏は共に五十数年に及ぶ泉州山岳会の在籍経歴のなか、ただ黙々と、何の野心を抱くこともなくひたすら自身の信じるまま、山また山を登り続けられました。いずれその功績は明かにしたいと思いますが、両氏の生き様を顧みますと、私ども俗物は敬意と驚嘆の思いでいっぱいになります。両氏ははからずも同月に前後して亡くなりました。また共に生涯独身で、死後一切のセレモニーを固辞することと遺稿されたそうです。心からご冥福を祈ります。 記:紀伊林本(節)										
連番	730	例会No.	OP237	内容	播州・雪彦山	実施年月日	2016/12/11	担当者	大石、板谷	参加者数	7
参加者	大石隆生、板谷佳史、小川眞裕美、保木道代、安岡和子、神阪洋子、村木ともし										

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	鉛色の冬空で晴れたかと思うと時雨れ一瞬小雪が舞うという肌寒い天気でしたが、岩場の連続にスリルを味わい、その後の大天井岳では例会があった七種山や明神山、遙か遠くには六甲山から明石海峡大橋、小豆島、鉾立山からは宍粟の山々と大展望を楽しみました。登山口で計画書を提出し、杉の植林帯の急な丸太階段をゆっくりと登っていく。巨岩の不動岩を過ぎ展望岩に出ると北方向に視界が開け、三峰岳等の岩峰群がよく見える。クライマーの姿も見え、「どこを登ったのかしら」とかかってのクライマーの懐かしむ声も。ここからは傾斜もいくらか緩くなり、上から覆い被さるような岩壁の出雲岩に着く。この先からが本日のお楽しみ？が始まる。視岩や馬の背と名付けられた鎖やロープがあるスリリングな岩場が連続する。ザックを下して横向きにならないと通過できないセリ岩も。岩や木の根を掴みさらに登ると大天井岳で、ここで展望を楽しみながらお昼休憩をとる。休憩後、予約した帰りのタクシーの時間が気になるのでペースを上げ、小さな上り下りを繰り返して三角点のある雪彦山から鉾立山へ。峰山方面との分岐からは急斜面の九十九折れの道を下って谷筋へ。虹ヶ滝からは山腹を捲く道となり、出合でゴーロー帯の谷筋へと戻って登山口に下る。記:大石								
連番	731	例会No.	一般484	内容	千丈寺山	実施年月日	2016/12/18	担当者	小椋(勝)、翁長
参加者	小椋勝久、翁長和幸、小川眞裕美、青木義雄、村木正人、小椋美佐、岩本和行、寄川都美子、安本昭久、神阪洋子、村木とも子、安本嘉代、前田守、岸田暎子							参加者数	14
担当者コメント	JR三田駅からバスに揺られ20分程度で乙原口に着く。何を考えていたのか、乙原口を乗り越して乙原のバス停まで行ってしまい引き返すことになる。バス停から天狗の森公園までは10分程度、道も広いので快晴の空の下わいわいとしゃべりながら歩き天狗の森公園に着く、駐車場からしばらくコンクリートで舗装された林道を歩くと砂防ダムが見えてくるその前の沢を渡り登山道へ合流する。登山道はよく整備されていてケヤキやヤマボウシの木々の中、初冬のハイキングを楽しみながら登って行くと頂上直下の急登が現われる。急登を登ると庚申さんが現われる、庚申さんを通り過ぎ主稜線に出ると松住権現があり広い平坦地になっている。そこから北に登り北千丈山に向かう北千丈山は見晴らしが悪く小さな北千丈山と書かれてる札がぶら下がっているだけでした。北千住山から引き換えし松住権現で休憩を取り千丈寺山に向かう、途中ドーンリッジまではいかなもの岩稜地帯が有り少し楽しめた。千丈寺山、山頂は少し広いが見晴らしが悪いので展望岩で昼食をとることにする。展望岩からは仙丈寺湖、播州平野から六甲連山が一望でき、陽だまりの中昼食を取りながらしばらく景色に見入っていました。昼食後展望岩から急坂を下り南へと延びる稜線から北浦宮に向かった。北浦宮から小野のバス停までは車道を歩くことなるため、山道になれた皆さんもアスファルトの上では口数少なく小野のバス停まで歩きバス停で解散しました。記:小椋(勝)								
連番	732	例会No.	一般485	内容	和泉山地・一徳防山～学文峰	実施年月日	2016/12/23	担当者	西村(晶)、杉本(康)
参加者	西村晶、杉本康夫、黒澤百合子、安本嘉代、小川眞裕美、保木道代、安本昭久、西村美幸、安岡和子、板谷佳史							参加者数	10
担当者コメント	滝畑ダムサイトより車道を下り滝尻口に向かう、扇畑谷乗越に向かう扇畑谷は荒れており、かすかに残る踏み跡をたどる。一徳防山より整備された関電道を下り行司河原分岐に出る、上峠に向かう道は3通りある、林道流谷線に舗装道路を歩き新道乗越より左の尾根に出るコース、向イ谷をつめて新道乗越に出る谷筋の道もあるが(国土地理院の地図に点線で明記)土砂に覆われており歩行が難しい。行司谷と向イ谷に挟まれた中間の尾根を末端より登る、登り口は注意しないと見過ごしてしまう程踏み跡が細い道である。30分程の急坂を登り切れば杉林の緩やかな稜線に飛び出す事ができる。下峠あたりより北に延びる尾根道を探しながら落葉に覆われた緩やかな尾根道を進むと学文峰に立つ事が出来ました。黒い雲が急に近づき始めると、冷たい雨とあられが降り始めたので急いでジルミ峠に向かう。主稜線から離れた低山ですが、始めて登った学文峰は小さな喜びを感じられる頂上でした。記:西村(晶)								
連番	733	例会No.	一般486	内容	伊賀・霊山	実施年月日	2016/12/25	担当者	板谷、小椋(勝)
参加者	板谷佳史、小椋勝久、村木正人、青木義雄、保木道代、小川眞裕美、寄川都美子、小椋美佐、寺島直子、村木とも子、岸田暎子、神阪洋子、小杉美代子							参加者数	13
担当者コメント	霊山と名付けられた山は各地にある。ここ伊賀霊山も昔から登拝されていたし、市民の日の出登山も盛んらしい。朝からクリスマス寒波とは縁遠い暖かさである。元野外活動センターのキャンプ場から整備された登山道が続く。汗ばんだりすることもないうちに一時間弱で山頂だ。山頂は寺院跡ということもあり広く、特に南、東側は伊賀盆地が一望でき、その先遠く曾爾の山々の向こうに大峰や台高が望まれる、西には琵琶湖の向こうに(ここから琵琶湖の湖面まで見えるとは思っていなかった)比叡山、比良の山々まで胸のすくような快晴の景色が広がっている。暖かな日差しの元で昼食休憩をとりあとは車道を柘植駅へと戻った。帰り道に芭蕉公園を訪ねる予定にしていたが街中で迷って寄ることができなかった。そのこともあって予定したより一台早い列車に乗ることができた。記:板谷								
連番	734	例会No.	一般487	内容	金剛山	実施年月日	2017/1/3	担当者	西村(晶)
参加者	西村晶、安本嘉代、保木道代、杉本栄子、小川眞裕美、前田守、山倉康次、安本昭久、寺島直子、安岡和子、紀伊榎本節雄、板谷佳史、江本恭子、脇本勇二、峯岡宣重							参加者数	15
担当者コメント	カトラ谷の出合で小休憩、あったかいのでジャケットを一枚脱ぐ、セトに登る杉林は間引き作業が進められており、太陽の光が入り明るくなっていました。セトより緩やかな稜線沿いに頂上を目指す、白く輝く霧氷の景色を期待してきたのだが残念ながら落葉広葉樹林の木々を眺めながらの山道であった。多くの登山者で賑わう国見城跡の広場で昼食にする。昨年に引き続き今年も雪、霧氷も見られませんでした、温暖化が進んでいるのでしょうか、41年前のアルプス氷河と昨年写真を見比べると氷河が後退して岩肌が多く露出しているのが分かりました。転法輪寺に初詣、今年も安全登山を願う。記:西村(晶)								
連番	735	例会No.	一般488	内容	新年ハイキング・旗尾山	実施年月日	2017/1/8	担当者	野原、杉本(康)
参加者	野原勇、杉本康夫、秋田文雄、池田える子、板谷佳史、岩本和行、上原進一、牛山恵美子、牛山友幸、大森朋江、小川眞裕美、翁長和幸、笠松マサエ、河合幸夫、紀伊榎本節雄、黒澤百合子、神阪洋子、幸野光加、小杉美代子、中川由紀、西村晶、西村美幸、藤田喜久江、永島健一、保木道代、堀木宣夫、前田守、榊田誠寛、三原秀元、村木正人、安岡和子、安本昭久、安本嘉代、山倉康次、寄川都美子、和田敬子、和田都子							参加者数	37

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>新年ハイキングがまさかの雨。それも年が明けて天気が続いていたのに今日だけ雨、また明日から天気が回復する。何という皮肉な天気の巡り合わせか。天見駅で新年の挨拶を交わしスタート。駅南側の踏切を渡り道路沿いに林道へ。そのまましばらく歩き左手にかかる小橋を渡って登山道に入る。登山道は整備されていて1~2ヶ所のやや急な登りがあるだけで頂上へ到着、樹林帯で展望はない。旗尾岳から府庁山へは登っては下り、登っては下りの連続だが全体的に見れば適度なアップダウンが続く。府庁山とは不思議な山名だが、大阪府が昔この一帯の山を借りて植林をしたことに由来があるとのこと。府庁山で雨の中、早めの昼食をとる。昼食後府庁山から田山へ。田山頂上からクヌギ峠へのコースは物凄い急坂。このような急坂に雪が付いていればスリップ続出は避けられないだろう。思わず後に続くメンバーに「慌てる必要はない。何時間かかってもいいからゆっくり下れ！」と声かけをしたほど。クヌギ峠からは安全な林道になり、しばらく歩いて広い車道(南河内グリーンロード)に出る。予定した下山時間より40分以上遅いが今日の天気とこのコースなら仕方がない。千早口駅に向かってスピードアップし、待機している送迎バスへ乗り込んだ。 記:野原</p>									
連番	736	例会No.		内容	2017年度新年会・いよやかなの郷	実施年月日	2017/1/8	担当者	小椋(勝)、大石	
参加者	<p>小椋勝久、大石隆生、青木義雄、秋田文雄、池田える子、板谷佳史、岩本和行、上原進一、牛山恵美子、牛山友幸、梅田寛子、大森朋江、小川眞裕美、翁長和幸、小原武尚、笠松マサエ、片山純江、河合幸夫、紀伊塾本節雄、喜多田恵美子、樺田克彦、黒澤百合子、神阪洋子、幸野光加、小杉美代子、櫻井宏子、杉本康夫、戸田晴子、中川由紀、永島健一、西村晶、西村美幸、野原勇、藤田喜久江、保木道代、堀木宣夫、前田守、榊田誠寛、實操綾子、三原秀元、村木とも子、村木正人、安岡和子、安本昭久、安本嘉代、山倉康次、山耕初好、山本京子、寄川都美子、和田敬子、和田都子、和田晴次</p>							参加者数	52	
担当者コメント	<p>「いよやかなの郷」での6回目の新年会開催。午後2時30分からの開会予定であったが、ハイキングが予定時間をオーバーしたため午後3時からに変更。受付をした後、温泉でハイキングの汗を流す。小椋さんの司会で午後3時スタート。先ず板谷代表の挨拶に始まり、榊田泉州山岳会会長の挨拶、昨年度の例会実施報告、会計報告、例会最多参加者3名の表彰と受賞者の笑いを誘う受賞挨拶がありました。その後創立15周年に当たっての取り組み紹介。今年度は上位10人に大盤振る舞いです。今まで受賞に縁のなかったメンバーの方々、今年度はチャンスです。今回最多参加賞を受賞した小川さんの言われた「山を登っていると健康に過ごせる」を目標にチャレンジしましょう。新年会では板谷代表の挨拶、紀伊塾本さんの乾杯の後、宴会スタート。ビンゴゲームなどで大いに盛り上がりました。今回は特に和田さんからも絵画の提供を受けました。最後に秋田さんの中締めで終了しました。 記:野原</p>									
連番	737	例会No.	一般489	内容	比叡山・横川中堂~三石岳~日吉大社	実施年月日	2017/1/15	担当者	野原、翁長	
参加者	<p>野原勇、翁長和幸、西村美幸、安本嘉代、安本昭久、小川眞裕美、西村晶、保木道代</p>							参加者数	8	
担当者コメント	<p>昨日から始まった大学入試センター試験に合わせたように降りだした雪、坂本の町も一面の雪に覆われている中、雪に足を取られないよう気をつけながら登山口へ。登山口は接近して2ヶ所あるが安全面を第一に奈良坂をとる。ネットで調べると奈良坂は荒れて歩きにくいと書かれていたが、積雪で溝や倒木が埋まり歩きやすかった。誰も歩いていない新雪の上を歩くのは気持ちが良い。積雪は20~30cm程度か。途中通過の飯室谷は松禅院、長寿院、不動堂などが狭い範囲に集まった地域。千日回峰を目指す僧、達成した僧(大阿闍梨)達が住む地域のひとつ。不動堂で手を合わせた後、横川へ続く中尾坂へ入る。標高差400m程度の登り一方で、登山道にかかる枝は大量の雪をまとっており、通り抜ける度に頭から雪を浴びながら横川中堂へ続く林道に出る。横川中堂往復は時間がかかるためバス。林道を三石岳へ向かう。途中から先頭を交代してラッセル体験をしてみよう。ラッセルという程でもないがやはり時間はかかる。三石岳の頂上に立つと八王子山方面は藪漕ぎになるので山腹を巻き八王子山へ。八王子山のピークを勘違いして手前のピークに登るミスをしてしまった。思い込みによるミス、反省。正規のルートに戻り、八王子山ピークへ。ピークからは急な下り道。雪が乗っているため慎重に下り牛尾宮と三宮宮の間に降りる。清水の舞台を思わせる立派な社殿だ。ここで女性1人の参詣者に出会う。その女性もびっくりしていたが、それ以上に我々の方がびっくりする。こんな雪道を登山者でない女性が1人で登ってくるとは。直下の石段からは眼下に広がる町だけでなく、琵琶湖も対岸の山々も一望だ。雪の参詣道を下りながら、日吉大社の前まで先程の女性の話で持ち切りとなる。日吉大社の東本宮入口で解散。名物蕎麦屋「鶴喜そば」へ直行するが時間切れアウト。午後3時に閉店とは予想外。仕方なく手前のそば屋さんへ。この寒中、参加のメンバーお疲れ様でした。また参加メンバーに昨年度例会参加回数No. 1とNo. 2兩名も参加しております。あっぱれ!この2名の独走を阻止するメンバー出でよ! 記:野原</p>									
連番	738	例会No.	OP238	内容	第15回スキーカーニバル・イン・信州戸隠スキー場	実施年月日	2017/1/22~25	担当者	西村(晶)、紀伊塾本(節)	
参加者	<p>西村晶、紀伊塾本節雄、大石隆生、上原進一、和田敬子、西村美幸、安本昭久、安本嘉代、脇本勇二、保木道代、板谷佳史、松田芳治、岩垣寿治</p>							参加者数	13	
担当者コメント	<p>1月に入っても雪が降らない状況が続き、スキー場にリフト運行状況、コース開設状況を確認すると、半数のリフトが停止、22カ所のコースも7カ所だけが滑降可能な状況でした、このままの状況なら場所の変更も必要かと思いました。私たちの宿泊近くの中社ゲレンデは雪がなくて全コースクローズの状況でしたが、12日頃より雪が降り始め、滑降可能なゲレンデも増えてきたので少し安心致しました。宿泊先である中社のゲレンデも20日にやっと1m50cmとなり、全コースが滑走可能となりました。連日の降雪でゲレンデは粉雪が降り積もり、何処を滑ってもパウダースノーのゲレンデです、リフト券売り場のおばさんも連日の大雪で困ったもんだと言っていました。圧雪のされていない粉雪の降り積もった斜面を、自分が描いたコースを理想とするターンで滑降する醍醐味がたまりません。現状よりも少しでも上手く滑りたい、スマートに、かっこ良く、力強くターンが出来ればと思いつつ何度かゲレンデを滑りました。みんながうまく滑れるように、ワンポイントアドバイスで進歩して上手に滑れるようになって行くのがうれしく感じます。深い新雪の斜面を粉雪を蹴散らしながら滑る楽しさを、ロッカースキーでやっと味わえました、トップが雪の中に沈まないのです、グイグイと浮き上がってくるのです。スキーの楽しさは、つねに前進です。楽しく滑る、力強く滑る、かっこ良く滑りましょう。スキーは楽しいです、皆さん実践してみようではありませんか。 記:西村(晶)</p>									
連番	739	例会No.	一般490	内容	京都・地藏山~愛宕山	実施年月日	2017/1/22	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	
参加者								参加者数		

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	中止										
連番	740	例会No.	一般491	内容	比良・蛇谷ヶ峰	実施年月日	2017/1/29	担当者	翁長、西村(晶)	参加者数	16
参加者	翁長和幸、西村晶、寄川都美子、和田良次、西村美幸、山倉康次、前田守、安岡和子、保木道代、小椋美佐、安本昭久、安本嘉代、小川眞裕美、板谷佳史、杉本康夫、小杉美代子										
担当者コメント	列車を降りるとあたり一面は雪景色。山ではかなりの積雪が予想される。が、しばらくは降雪がなかったようで少し「締まっている」という感じ。バスは登山客で満員である。すべて私たちと同じコースで蛇谷ヶ峰に行くようだ。9:45朽木支所前バス停を出発。朝は天気良かった。朽木いきもの・ふれあいの里への広い車道に行く。完全に除雪されている。除雪終了点でスパッツのみ着け、スノーシューで踏まれた雪道に行く。実質の登山口となる尾根の取りつきに着いた。スノーシューの踏み跡が歩きづらく、軽く蹴りこんでの登りとなる。アイゼンの必要性は感じない。山スキーの三人組が下ってきた。雪は十分あるが、この雪質とこの樹間では少々つからろうと思われる。頂上の近くまで来ると琵琶湖の向こうに伊吹山がかすんで見えてきた。13:00頂上着。積雪は120~130cm。360°の眺望であるが、残念ながら今は雲がたれこんでスキッとしない。南には頂上部分が真っ白になったピークがよく見える。武奈ヶ岳と思われる。風があるので少し下って昼食とする。この頃になると4~5パーティが上がってきた。さすがに冬山とはいえ人気の山である。下山は往路をもどる。除雪終了点に着いた頃より雨が降り出した。16時バス到着。ちよびり冬山の厳しさと樹氷を期待して出かけた。しかし、ここ数日來暖かかったのか木の枝には全く雪が着いておらず、厳しい冬の様子もなく、晩冬の山といった趣で少々物足りなさを感じた。しかし登れて良かった。記:翁長										
連番	741	例会No.	一般492	内容	金剛山・太尾道	実施年月日	2017/2/5	担当者	杉本(康)、野原	参加者数	
参加者											
担当者コメント	雨天中止										
連番	742	例会No.	一般493	内容	ベーシック登山No. 39 「岩場を安全に通過する」講習会・屯鶴峯	実施年月日	2017/2/12	担当者	板谷、西村(晶)、山倉	参加者数	24
参加者	板谷佳史、西村晶、山倉康次、安本嘉代、安本昭久、三原秀元、寺島直子、黒澤百合子、寄川都美子、和田都子、藤田喜久江、馬場美穂子、和田敬子、保木道代、小川眞裕美、村木とも子、池田える子、西村美幸、村木正人、和田良次、翁長和幸、杉本康夫、小杉美代子、岩本和行										
担当者コメント	「岩場の登下降や急斜面の下降になると危なっかしくて見ていられない時がある」とリーダー間で話が出る時があります。同感で、初心者だけでなく経験者であっても再確認してもらい意味でも講習する機会が必要と考え企画しました。最新の登攀用具や使用方法はどんどん進化していますが、EPEの例会山行に必要な最低限の技術や用具の使用方法については変わることはありません。今回はそのような岩場や急斜面に必要な最低限の技術や用具の使用方法について学んでトレーニングしていただきました。怖い・と思いつつながらストックにすがるようにして、あるいは斜面にへばりつくようにして恐る恐る上り下りするのはなく正しい技術や姿勢で登下降する、それでも危険を感じるなら用具も使用して安全確実に通過すれば岩場や急斜面も恐れることはありません。今後の山行でそのような場所に出会ったら、今日のトレーニングで教わった要点を思い出し意識しながら通過すれば上達していきます。記:板谷										
連番	743	例会No.	OP239	内容	東北スキー場巡り、その9・蔵王温泉スキー場	実施年月日	2017/2/19~22	担当者	大石、紀伊壱本(節)	参加者数	15
参加者	大石隆生、紀伊壱本節雄、西村晶、岩垣寿治、松田芳治、安本昭久、上原進一、和田良次、前田守、脇本勇二、渡辺健、安本嘉代、寺島直子、西村美幸、安岡和子										
担当者コメント	当初は夏油高原スキー場を予定していたのですが、宿泊施設、ゲレンデへのアクセス、費用等EPEにはふさわしくないことから、蔵王温泉スキー場に変更しました。蔵王温泉スキー場といえばパウダースノーが有名で前回の戸隠のような雪質を期待していたのですが、生憎の天気ではそれは叶いませんでした。でも、雪質が悪くなくても、天気が少々悪くても滑るのがEPEクラブのモットーで、山頂から山麓に展開するいくつかのゲレンデの半数以上を滑ることができました。最終日になってやっと晴れ、蔵王ロープウェイの地蔵山頂駅から遠くには朝日連峰や月山、近くには樹氷原とスノーモンスターを眺め、まさしく蔵王を滑っていると感じながらのスキーを楽しみました。記:大石										
連番	744	例会No.	一般494	内容	三上山~妙光寺山 歴史探訪シリーズNo. 35	実施年月日	2017/2/19	担当者	小椋(勝)、板谷	参加者数	18
参加者	小椋勝久、板谷佳史、寄川都美子、和田敬子、池田える子、村木正人、和田都子、村木とも子、黒澤百合子、青木義雄、小川眞裕美、藤田喜久江、三原秀元、岩本和行、神阪洋子、岸田暎子、野原勇、江本恭										
担当者コメント	野洲駅から御上神社まで徒歩で向かう。30分程度歩くと国道8号線の西側に鎮守の森が見えてくる。スタート地点の御上神社だ。御上神社で三上山のいわれを少し話し、あいさつと今日の行程を話す。挨拶を済ませ交通量の多い8号線を横断し表登山道口へと向かう獣除けの扉を開け登山道に入ると、やはり外見通り急な登山道である。息を切らせながら登って行くと割岩が姿を現す。せつかつなのでみなさんに通ってもらうが私通れるかな、お尻が邪魔かな、などと彼方此方から聞こえてくる。しかし全員無事通過し笑顔で頂上へ向かう。割岩を過ぎたあたりから岩場が現われる。岩場を登り振り返ると近江平野が一望できた。この地域で戦国時代群雄割拠し覇権を争っていたことを考えると頷ける。三上山の山頂は先客で賑わっていたので南側の岩場で早い昼食を済ませ妙光寺山へと向かう。三上山からの北尾根の縦走路は快適だがアップダウンが多い、途中四阿でこの山の歴史とムカデ伝説の話をする。妙光寺山の山頂は雑木林で視界が悪い、早々に妙光寺山を後にして田中山へと向かう。それにしてもアップダウンが多い。うんざりしながら田中山から旗振山に着き早々に下山する。今日は早く終わると思っていたが時間がかかってしまった野洲駅で解散し、帰阪する。記:小椋(勝)										

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

連番	745	例会No.	一般495	内容	播州・笠形山	実施年月日	2017/2/26	担当者	杉本(康)、野原	参加者数	16
参加者	杉本康夫、野原勇、小川眞裕美、神阪洋子、保木道代、岩本和行、和田敬子、和田都子、池田える子、和田良次、小杉美代子、岸田暎子、黒澤百合子、安本昭久、安本嘉代、板谷佳史										
担当者コメント	笠形神社の大鳥居前の駐車場でタクシーを降りると付近はたくさんの車で溢れている。駐車場に出入りする車や上から降りてくる人たちでごった返しているのが早々に出発する。行き交う人々は家族連れも多く、手には何やら景品らしきものを持っている。しばらく歩くと笠形寺で厄神祭が行われていてそこへのお参りの人達であったとわかる。笠形神社は1400年前の創建と伝えられ古びてはいるが拝殿、本殿など揃っておごそかな雰囲気にも包まれている。本殿の竜の彫り物も素晴らしく神社周辺には樹令800年の大杉もあり、昭和34年姫路城の大修理の際、笠形神社のご神木であった桧がこの地より運ばれたそうである。本殿裏から登山道に入り笠の丸まで登ると、淡路島や六甲の山並みが望まれる。風もほとんどなく暖かな日差しの中30分ほどで笠形山に到着する。古くから播磨富士とよばれ人気の山だけに山頂には東屋もあり多くの人たちで賑わっている。展望もよく但馬・丹波の連山や播州の山並み、瀬戸内海も一望できる。大休止の後もと来た道を鞍部まで戻りグリーンエコー笠形に向け下山する。このコースは登ってきたルートより緩やかに下っている。途中で滝見台の案内板に導かれ遍妙の滝を見学に行く。1週間前であれば氷瀑が見られたそうですが今回は凍っていないで残念でした。しかし、落差65mは見ごたえがありました。グリーンエコー笠形でバスが出た直後だったのでタクシーを呼ぶのが台数が少なく駅までピストンしてもらう。このような山間部ではタクシーの台数も少なく考えさせられました。 記:杉本(康)										
連番	746	例会No.	一般496	内容	高城山	実施年月日	2017/3/5	担当者	小椋(勝)、西村(晶)	参加者数	14
参加者	小椋勝久、西村晶、村木正人、上原進一、岩本和行、牛山友幸、小椋美佐、小川眞裕美、村木とも子、牛山恵美子、藤田喜久江、池田える子、梅田寛子、安本嘉代										
担当者コメント	3月になり春の陽気に誘われて泉佐野駅前の犬鳴方面バス乗り場は、臨時バスが出るほどの大勢のハイカーたちで賑わっていました。ハイカーたちで満員のバスに揺られ犬鳴バス停に向かう。同じように降りた他のハイカーを避け、バス停横の駐車場で挨拶と今日の行程を話し出発する。不動谷沿いの参道は少しひんやりするものの春の木漏れ日が差し込み気持ちよく歩くことができ、わいわいがやがやと歩いているうちに不動尊に着く。お不動横の登山道を上がり西の覗きから高城山へむかおうとしたがお寺の職員にとめられて仕方なくコツキ谷から向かうことにした。杉木立の登山道をしばらく歩き高城山に着く、展望も何も望めない山頂で昼食を取り、来た道を高鍋山へと向かう。高鍋山への登山道は林道との交差を繰り返しながら続いていて進行方向から山頂へと行けるはずだが、山頂をトラバースし引き返すように登り高鍋山へ着く。高鍋山から大木に向かう予定だが時間もあるので途中天狗岳による、山頂で皆さんと地図で天狗岳の位置を確認する。後は大木の集落へと下山すればよいのだが沢山の道が有り地図とにらめっこしながら歩く。しかし分岐を見過ごし300mほど先の松尾山に行ってしまう引き返すことに、引き返し分岐を見つけ下降するが道は荒れていて踏み跡もなく藪や崩れている所が有り歩きにくい、やっとの思いで四足林道に出ることができ大木の集落へと向かうことができました。泉州地方の山は良い山もあり変化に富んで面白いと思うが人気がないため道が荒れている所が多い。多くのハイカーがもっと目を向けてくれれば、道も整い良い山歩きができるのでは？ 記:小椋(勝)										
連番	747	例会No.	一般497	内容	ベーシック登山No.40 北摂・十方山～釈迦岳 読図例会	実施年月日	2017/3/12	担当者	野原、西村(晶)	参加者数	16
参加者	野原勇、西村晶、江本恭子、安本昭久、安本嘉代、西村美幸、小杉美代子、前田守、脇本勇二、神阪洋子、岸田暎子、村木とも子、板谷佳史、安岡和子、小椋美佐、小川眞裕美										
担当者コメント	今回の読図講習は前2回とは異なり登山道を進むだけでなく、理解度を確保するため少し難しいコースとしました。スタート前に山崎駅前まで正置と進行方向確認をしてもらいましたが、このような基本動作にかかる時間は出来るだけ短くしましょう。この大山崎周辺は、「乙訓(おとくに)のタケノコ」の名産地ということもあって作業道が縦横に張り巡らされており、地形図を細かく追っていかないと迷路に入ったような感覚に陥ります。等高線を読む力を試される難コースを担当したDチームご苦労様でした。Cチーム担当のコースは十方山から登山道を外れ西側にある林道に向けて下降。しかしこの広い林道が「立ち入り禁止」の私道とは全く予想しておらず、出口ゲートで持ち主から注意を受ける。私の完全なコース設定ミスでした。Bチームは柳谷観音からゴルフ場、大沢の小集落、林道を経て釈迦岳へ。主として車道や林道歩きで迷うような箇所はなし。但し、山道に入った途端に距離感覚を失っている点が見受けられました。地形図を細かく追っていけば現在地はほぼ把握できます。Aチームは釈迦岳から少し戻って南下し、なだらかな川久保保根を辿り川久保の集落へ到着。ここ川久保は発着するバスの便が少ないため、少々距離はあるが神峰山寺を経て神峰山口バス停まで歩き解散としました。長距離・長時間の歩行お疲れ様でした。今回の例会を終えての感想として、一部メンバーに「前へ前へ」と進む積極的な姿勢が見受けられました。このメンバーを見ていると地形図を良く見て、自分で判断しています。すべてのメンバーに期待することはコンパスの基本的な使用法をマスターし、この先はこうだろうと常に先読みを実行し、その場に到着したら瞬時に進むべき方向を判断することです。迷えば迷うほど一歩も進めなくなります。間違えてもOK、間違いに気づけば躊躇することなく引き返せば済むことです。人は間違えた経験を通して上達します。 記:野原										
連番	748	例会No.	OP240	内容	四国・石鎚山	実施年月日	2017/3/18~19	担当者	板谷、大石	参加者数	16
参加者	板谷佳史、大石隆生、岩本和行、和田敬子、和田良次、神阪洋子、小川眞裕美、安岡和子、村木とも子、村木正人、安本嘉代、杉本康夫、脇本勇二、小椋美佐、渡辺健、小杉美代子										

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>例年3月、積雪期2000m級山岳の例会を続けてきたが、ほとんどがテント泊登山となるため参加できるメンバーが限られてしまう。西日本最高峰である石鎚山は過去の例会で2回取り上げられているが、ロープウェイとその駅付近にある旅館宿泊を利用して初級者にも挑戦してもらえよう工夫してみた。石鎚山は麓にある石鎚神社本社の神体山であり、中宮成就社と奥宮山頂社への参拝道でもあるため登山道はしっかり整備され、通年運行のロープウェイとその駅近くの成就社には宿泊・休憩施設が数軒あり信者はもちろん登山者にも好都合な山となっている。とはいえ、積雪期には油断のならない本格的な山岳となる。慎重に計画と準備をして臨んだ。実質、3/19一日の日帰り登山である。6:30早朝の引き締まった雪面を踏んで出発、樹林が切れて石鎚山北壁が目の前に広がる夜明峠(よあかしとうげ)に立つところには久しぶりあるいは初めてに近い人もアイゼン、ピッケルにも慣れてきて傾斜の強まる上部の登りに向かう。途中、二の鎖でせっかく来たのだから一度はクサリ場を登ろうかと取り付いたが上部は完全に氷の斜面となっており中止して捲き道へ戻る。なにせ16名の大所帯では時間もかかったが10:30に奥宮のある弥山山頂(1974m)に立つ。続いて最高点の天狗岳(1982m)へ向かう、北壁側がすっぱり切れ落ちた岩稜を慎重に通過して天狗岳に立つ、更に南尖峰がすぐの所に聳えるが帰りの時間にも迫られているので割愛し帰路についた。登頂当日は快晴に恵まれ、おまけに前日から多くの登山者に踏み固められたトレースを行くことになりましたが、初級者にも経験してもらうという目的は一応果たせたかと。もっともアイゼン、ピッケル技術等にわか仕込みの方・今回登れたからと言って過信は禁物です。 記:板谷</p>								
連番	749	例会No.	一般498	内容	和泉山地・三石山	実施年月日	2017/3/19	担当者	西村(晶)、小椋(勝)
参加者	西村晶、小椋勝久、寄川都美子、安本昭久、岸田暎子、前田守、藤田喜久江、和田都子、實操綾子、大森朋江、西村美幸、上原進一、山本京子、梅田寛子、紀伊榎本節雄、杉本栄子							参加者数	16
担当者コメント	<p>御幸辻駅より5分も歩けば緩やかな木々の生い茂る公園の山道です、桜のつぼみも少し膨らみはじめていました。杉村公園の赤い吊り橋の所で準備運動を行った後に、揺れる吊り橋を渡り山道に入り、1時間少し歩くと身体もあつたかくなり上着を1枚脱ぎ汗を拭いながら予定していた12時前に三石山の頂上に着きました。頂上よりサザンカの咲く峠まで下り、横尾よりクロ谷方面に下る予定でしたが踏み後が不明瞭なのでサザンカの咲く峠まで戻り、赤いテープに導かれて大谷に入る山道を慎重に下りました。主稜線より外れた山道は踏み後も少ないので安全を確保する事が必要です。 記:西村(晶)</p>								
連番	750	例会No.	一般499	内容	六甲・赤子谷左俣～行者山	実施年月日	2017/3/26	担当者	大石、板谷
参加者	大石隆生、板谷佳史、江本恭子、和田良次、和田敬子、西村晶、西村美幸、渡辺健、池田える子、和田都子、寄川都美子、安岡和子、寺島直子、小川眞裕美、小椋美佐、杉本栄子、駒井万生子、黒澤百合子、安本昭久、安本嘉代							参加者数	20
担当者コメント	<p>先週の石鎚山では残雪と冬枯れで春が来るのはまだまだ先という感じでしたが、今回は馬酔木のかすかな甘い香りや時どき見かける水色の躑躅に春の訪れを感じさせられる一日でした。JR京都線の事故で復旧まで1時間ほどかかるとのことで、東西線の北新地駅から予定より約30分の遅れで生瀬駅に着く。新興住宅地の奥から生瀬用水沿いに赤子谷に入り、流れに沿った踏み跡から左岸の道路を通過して西宝橋へ。ここから谷歩き再開。堰堤を幾つか越え、落差10メートルほどの赤子滝をフィックスロープがある左岸から捲くと、六甲山系で最長といわれる80メートルほどのゴルジュに入る。小さな谷なので水量は少ないが、それでも靴を濡らさないようにと足元を選び、ほどよく緊張しながら通過していく。さらにフィックスロープがある小滝をいくつか越え、岩がゴロゴロした源流部となり、急斜面を登ると縦走路脇の送電塔の下に飛び出した。ここからは歩き易い道で、そのすぐ下を何回も通りながら立ち寄ったことがなかった岩倉山の祠と三角点に寄り道し、反射板からどんと下って登り返して行者山へ。東観峰から間近には甲山を、その向こうにぐるっと神戸から大阪や宝塚の市街地を眺め、壁のように続くマンションを見下ろしながら雨が降り始めた中をバス停に着き解散とした。 記:大石</p>								
連番	751	例会No.	一般500	内容	河内・弘川寺を巡る山+アルファNo19「西行記念館見学」	実施年月日	2017/4/1	担当者	紀伊榎本(節)、小椋(勝)
参加者	紀伊榎本節雄、小椋勝久、和田良次、和田敬子、小川眞裕美、和田都子、村木正人、安本昭久、安本嘉代、野口秀也、村木とも子、池田える子、藤田喜久江、上原進一、小杉美代子、寄川都美子、梅田寛子、牛山恵美子、板谷佳史							参加者数	19
担当者コメント	<p>昨秋の例会のことでした。紅葉を求めて葛城山から弘川寺に下り、ついでに西行の墓所に詣でるつもりが見事に失敗したのです。やはりついで参りは御利益は無いようです。そこで今回は西行と弘川寺を主題に例会を組みました。おおよそ西行の歌には知識も関心も無い私が高んたる暴挙かと思ひながらです。一方で、元北面の武士であった西行の身辺にかかわる出来事と、その後の流浪の生涯には興味がありました。いそいで西行法師とは何者かと勉強しましたが、所詮にわか仕込みです。ますます歌詠みの難しさに翻弄され、その境地に至りません。唯一の救いは、歴史も文化も現場で体験しようと常々思う事です。主人公と同じ場所に立ち同じ想いを馳せることは貴重であり、またときに面白き導きに出会うかも知れません。思えば、綿々と山また山へと登り続ける私共も、案外同じ流離の道を歩んでいるのかもしれないですね。ハイキングの効用はほんに拡がりがあるようです。 記:紀伊榎本(節)</p>								
連番	752	例会No.	一般501	内容	行者山	実施年月日	2017/4/9	担当者	杉本(康)、板谷
参加者	杉本康夫、板谷佳史、江本恭子、和田敬子、岸田暎子、三原秀元、寺島直子、小川眞裕美、馬場美穂子、梅田寛子、村木とも子、牛山友幸、牛山恵美子、岩本和行							参加者数	14

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>「独鈷抛(とこなげ)山千手寺(せんじゅじ)」は寺伝によると弘法大師の開創といわれ、遣唐使として唐に渡られた大師が密教の奥義を伝授され帰国に際し本国に向かって「独鈷(とっこ)」を天に投げ、帰国後その行方を奈良の春日神社にうかがい白鹿に導かれてこの地に来られたということです。以来この地を「鹿谷(ろくや)」山号を「獨鈷抛山」とし、十一面千手観音を安置するので「千手寺」というようになったそうです。また「眼病」に靈験あらたかな寺としても親しまれていて、これは観音様の眼に纏わる伝承によるそうです。JRの電車の遅延があったものの予定時刻より早く千代川駅に到着することが出来ました。千代川駅までの車窓からや駅からの道中のあちらこちらで満開の桜が眺められ、身も心も華やかになり今日一日楽しい登山になりました。行者山の鳥居をくぐると役行者を祀る洞窟や守護荒照大明神などが現れ行者の山という雰囲気が出てきたところで三角点のある行者山に到着しました。雨上がりの後冷たい西風が吹き山の東側では温かく山頂に近づくと冷えてきて汗のかいた体には寒さを感じます。千手寺では風も当たらずゆっくりと昼食を済ませることが出来ました。お寺を後にもと来た道を堂徳山まで戻り行者山との鞍部から予定にしていた往路を下って13時30分に千代川駅に到着しました。西風が冷たかったが、満開の桜も眺められ、行程も4時間でのんびりとした登山が楽しむことが出来ました。記:杉本(康)</p>									
連番	753 例会No. OP241	内容	行市山~柳ヶ瀬山 歴史探訪シリーズNo.36 +アルファNo.20	実施年月日	2017/4/15~16	担当者	小椋(勝)、紀伊塾本(節)			
参加者	小椋勝久、紀伊塾本節雄、藤田喜久江、和田都子、寄川都美子、村木とも子、村木正人、黒澤百合子、上原進一、板谷佳史、和田良次、小椋美佐						参加者数	12		
担当者コメント	<p>4月15日 余呉駅に着いた頃にはもう、雲行きが怪しく今にも雨が降りそうな空模様、早々に挨拶を済ませ観音堂登山口へと向かう。登山道を登り始めると雨が降り出したまらず傘を出す。3、40分歩くと中川清秀墓所に着く。墓所で歴史探訪恒例の講話、資料をそろえて勉強してきたがしゃべれない。参加者の方の方がよくご存じで合の手を入れてくれる。ありがたい事だ等と考え、歴史探訪も良く浸透したものだと思いつつ賤ヶ岳へ向かう。賤ヶ岳に着くころには本格的な雨 思わずボランティアの語り部さんの話所に避難。待っていましたとばかりに話をしたいのか話しかけてくる。雨宿りをさせて頂いたお礼にと聞くことにした。(みなさん私の講話を聞いていたおかげで話をよく理解できたりしい ※自分勝手な思いです)話を聞き外に出ると雨上がりの琵琶湖が目の前に広がっていて皆さん大喜び。日頃の行い、私のおかげかなと思いつつ切り通しから泊地へ春の湖畔を歩いて行きました。泊地は柴田勝家が建てた柝の木峠の茶屋を移築した宿、食事も鯖のなれ鮓、鯉の洗い等々プラスαにふさわしい食事。その夜は登山、歴史などの話題に大いに盛り上がりました。</p> <p>4月16日 宿の送迎バスと車2台で出発。最初に柳ヶ瀬山Pに車2台をデポ。送迎バスに乗り換え行市山登山口に向かう。毛受兄弟墓所にて挨拶と行程の説明を行い登り始める。天気も今日は回復しそう良い山行になるのではと思いつつ冬眠から覚めた熊に注意し登山道を歩く。途中、多くの砦跡があり 土塁、堀切などが多く見られた。別所山(前田利家砦跡)に着き休憩し行市山に向かう。行市山砦の規模は、さほど大きくなくあつという間に通り過ぎる。行市山山頂で少し休憩し余呉湖周辺の地理を見る。なるほどここに立てば陣取り、進軍の意味がよくわかると顧問との合戦話に話が弾む。歴史は現地に立たなくては理解できないと教えられました。行市山からは藪漕ぎ、踏み跡もないしテーパーピングもない、地図にとらめっこで先を急ぐ。途中残雪が残る中やつの思いで尾根道に出る。ここから柳ヶ瀬山までは快適な尾根道。途中景色の良いところで昼食を取り柳ヶ瀬山へと向かう。柳ヶ瀬山には玄蕃尾城跡がありその遺構は圧巻でした。そこで休憩し講話をして下山する。柳ヶ瀬山駐車場でデポしていた車に分乗し帰途につきました。皆さん今回も私の下手な講話に付き合ってく頂きありがとうございました。記:小椋(勝)</p>									
連番	754 例会No. 一般502	内容	金剛山地・高谷山~東條山~肩衝山	実施年月日	2017/4/16	担当者	西村(晶)、杉本(康)			
参加者	西村晶、杉本康夫、安本昭久、安岡和子、寺島直子、小川眞裕美、安本嘉代、牛山恵美子、西村美幸、牛山友幸、三原秀元、保木道代、脇本勇二						参加者数	13		
担当者コメント	<p>新しく舗装された急坂のコンクリート道を登り切れば、風が吹き抜ける久留野峠に着く、汗を拭い一休みと水分補給を行う。眼下に広がる紀の川を眺めながら、鳥のさえずりを聞きながら千早峠に向かう、モクレンの花も林の中に咲いていました。五条林道より、登り口が分かりにくい踏み後を探して、ショウジョウバカマの咲く円錐形の小さなピークである花尾山の山頂に着きました、小さな登頂の喜びを再度感じる頂上です。東條山より肩衝山に向かう手前の尾根道に入り少し下ってから間違いに気づき引返す。不明瞭な尾根道を探しながらの山歩きは楽しいです、地図で現在位置を確認しながら高い所を探して肩衝山の頂上に立ちました。踏み後の不明瞭な山道は確信を持って進まない事です、間違っているんじゃないかと感じながら辺りの地形を観察しながら進む事です。記:西村(晶)</p>									
連番	755 例会No. 一般503	内容	紀州・真妻山	実施年月日	2017/4/23	担当者	翁長、小椋(勝)			
参加者	翁長和幸、小椋勝久、山本京子、梅田寛子、和田良次、和田敬子、寄川都美子、牛山恵美子、杉本栄子、神阪洋子、笠松マサエ、西村晶、藤田喜久江、保木道代、上原進一、片山純江、和田都子、小椋美佐、村木正人、村木とも子、板谷佳史、岩本和行						参加者数	22		
担当者コメント	<p>マイカー4台とタクシー1台で御坊駅から大滝川森林公園駐車場へ。数台の車がすでに駐車していた。先行パーティがあるようだ。準備を整え涼みの滝から徳本上人初行洞窟へ。ここからきつい登りが始まる。密生した雑木林が終わるとパッと開けたようなピークにでた。真妻山の頂上である。地元の人が手入れしているのか、気持ちのよい芝生の丘になっている。360度の展望があり、今日は雲ひとつない天気に加え、乾燥していてとてもさわやかな気分だ。頂上横にそんなに古くはない祠があった。中には真新しい花がそなえられている。地元の人が、ここまでお祭りにきているのだろう。下りは尾根を東にとり観音堂跡へ。ここにも新しい祠があって薬師如来の石仏が祭られていた。頂上と同じように新しい花がそなえられている。地元では真妻山を大切にしているという事だろう。この下山コースには大きな滝がある。以前は25m位と思っていたのだが、もう一段上から続いている。70m位はありそうな大滝であった。車道横の炭焼き小屋へは、もうすぐの所まで下りてきた。炭を焼いている最中なのか煙が出ている。御滝神社へ立ち寄って駐車場へもどった。例会案内に書いたように真妻山は、私が好きな山の1つです。頂上は芝生に覆われた丘のようで、360度紀州の山並みを見渡すことが出来ます。今回も誠に心地よい所でした。参加された皆さんはどうでしたか。記:翁長</p>									
連番	756 例会No. OP242	内容	虎子山(とらすやま)と伊吹北尾根	実施年月日	2017/4/29~30	担当者	板谷、村浪			
参加者	板谷佳史、村浪義光、保木道代、小川眞裕美、小椋美佐、安岡和子、安本嘉代、黒澤百合子、小椋勝久、小杉美代子、村木とも子、村木正人、寄川都美子、上原進一、江本恭子						参加者数	15		

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>4/29 敦賀からの村浪氏と合流して大垣駅を出発する。1時間ほど走って国見峠へ。昼間は寒気の影響で不安定な天気となる予報、虎子山へ登り始めると全くその通りの天気急変となり暗雲垂れ込み雷雨の中を登る羽目に。山頂に立つ頃には雷も止み一安心。下山の途中ですっかり雨も止む。雨のキャンプとはならないで済みそう、それだけでありがたい。にぎやかな野外宴会を開催し、快晴の星空の元、一夜を過ごす。</p> <p>ここ国見峠越えの道は美濃と近江を結ぶ古代からの間道で、塩や絹を介した生活の道、また落ち延びた武将たちの哀史の道でもあったとのこと。今となっては通り抜ける車もまれで、登山者くらいしか通らない道となっているのかもしれない。虎子山は干支にちなんでよく登られる山、伊吹北尾根は花の山として、それぞれの起点となる場所だ。4/30 快晴となった朝、峠から昨日とは反対方向に向かう。時々わずかに残雪を見ながら足元の花を探しながら国見岳、禿山、御座峰と縦走路をたどる。こちら側から見ても堂々とした山容の伊吹山が眼前になり、ドライブウェイを走る車も見える頃、静馬ヶ原に達して縦走を終える。再び無名峰を加えると6個ほどのピークを上り下りして国見峠まで戻ることになるが、帰り道は更に気温が上がって往路の時より咲いている花の数が一段と増えて素晴らしい尾根道となっていました。 記:板谷</p>									
連番	757	例会No.	一般504	内容	河内弘川寺～ダイトレ稜線經由～岩橋山～竹内峠～岩屋峠～当麻寺	実施年月日	2017/4/30	担当者	山倉、西村(晶)	
参加者	山倉康次、西村晶、和田良次、安本昭久、岩本和行、片山純江、和田都子、牛山友幸、牛山恵美子、和田敬子、前田守、笠松マサエ、梅田寛子、大森朋江							参加者数	14	
担当者コメント	<p>富田林駅発金剛バスのダイヤ改正のため8時5分発さくら坂循環バスに乗り、河内小学校前で下車し少し歩き弘川寺で準備をする、弘川寺を巡る計画が4月初旬に実施され、歴史や文化については先日体験された方々も多かろうと思いいの件については割愛させていただきます。先日の桜は少し早かったようですが、秋の紅葉も素晴らしいものがありますので是非また尋ねてみてはいかがでしょうか。さて、今日は快晴、新緑の弘川寺道をダイトレ稜線を目指してのぼりを開始、結構きついのはりです。途中新設の林道が交差してきて悩むところもありましたが、2時間余りをかけ稜線に合流し大休止とする、カタクリの花で盛り上がっていました。ここからは二上山方向へ4つの峠越えで最終岩屋峠を目指します。かつてボッカ訓練で喘いだ道です、名残の山桜の花びらもチラホラ落ちる中、丸太階段の上り下りが続き最初の峠(岩橋峠)に到着。岩橋山への登りで息が上がります、この頃より、『あとどのくらいかな～もうちょっとやで』と、やり取りが聞こえてきます。平石峠から竹ノ内峠へは緩やかな稜線ですが長く感じます、最後の登りを30分で岩屋峠に、小一時間の下りで当麻寺境内到着。当麻寺と中将姫を巡る歴史や文化も興味ある方には面白いかと思います。古いお寺をつなぐ山歩きでしたが、今日は7時間半、しっかり歩いた印象で終了しました。 記:山倉</p>									
連番	758	例会No.	一般505	内容	丹波・弥十郎ヶ岳(やじゅうろうがたけ)	実施年月日	2017/5/7	担当者	板谷、野原	
参加者	板谷佳史、野原勇、神阪洋子、寄川都美子、村木とも子、小川眞裕美、保木道代、寺島直子、西口麻衣子、安本昭久、安本嘉代							参加者数	11	
担当者コメント	<p>弥十郎ヶ岳は篠山市に所在する山なのでれっきとした丹波の山ですが、三田市や猪名川町からの登路が知られており北摂の山として紹介されることも多い。今回は篠山市曾地の登山口から四十九院跡を經由して登るルートをとりました。四十九院跡はかつて歴史探訪例会があった八上城跡(高城山)と尾根続きでつながっており、籠城する八上城側に加担したため明智光秀軍により焼き滅ぼされた戦国歴史の場所です。といってもわずかに苔むした石垣が残るのみで荒れ果てた寺院跡となっていました。吹越峠に出ると薬師ヶ原からの登山道と合流して道は良くなる。沢沿いのちょっとした岩場やりっぱな洞窟を経て山頂に立ちました。丹波側が開けていて明るい山頂だが、黄砂が飛ぶ予報だったので晴れてはいるがボヤッとした展望でした。このまま下山したのでは時間が早過ぎるので山頂の北西にあるP621(ひともし山、平内丸址)を藪漕ぎ覚悟で經由して下山する計画にしていました。分岐点となる小ピークを確認し先に進みましたがその先で読図に失敗し南に寄り過ぎた。結局登りに使った登山道に出てしまい修正できないまま吹越峠に戻ってしまいました。担当者は失敗にしょげながらもそのまま薬師ヶ原コースを下山して波々部伯(ほうかべ)神社に出て例会は終了としました。 記:板谷</p>									
連番	759	例会No.	一般506	内容	台高・白屋岳	実施年月日	2017/5/14	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	
参加者	杉本康夫、小椋勝久、寄川都美子、山倉康次、片山純江、笠松マサエ、保木道代、小川眞裕美、小椋美佐、神阪洋子、村木正人、村木とも子、和田都子、梅田寛子、和田良次、岩本和行							参加者数	16	
担当者コメント	<p>大滝ダムが完成し試験湛水後に白屋集落に地割れなどの地滑りが現れたため全戸移転し今は廃村となって墓地だけが残っているようです。地元の中学校ではふるさと教育の一環として郷土の名山の白屋岳を訪れる全校登山をされており、EPEでそのルートをたどる例会を持ってみました。白屋橋を渡って少し歩くときれいな休憩所とトイレがあり、ここからの眺めは素晴らしくここに住まわれていた方たちが毎日この景色を眺められていたことを思うと羨ましい限りです。休憩所の横から以前利用されていた階段を登り登山が始まる。このルートは白屋岳への古道らしくあまり整備された状態ではなく植林の枝打ちした杉の枝がルート上に重なり歩きづらい。山頂までは登りのみで急登の所もありペース配分を考えながら登らないと意外と体力が必要とする。このような山道を登っている地元の若い中学生の力強さに私たちは関心と羨ましさを感じる。主稜線まで上がり995m付近で視界が開け大滝ダム湖などが見渡せ感嘆の声が上がる。これまでのしんどさの裏返しかな。白屋岳の山頂からは大峰の山並みが見渡せ、シャクナゲが時期的に少し早かったようだがポツンぽつんと赤い花を見せている。白屋岳から北西に伸びる尾根伝いに焼山を通過して白屋林道に降りようとしたが、稜線から少し下るとやせ尾根の西側斜面が崩落していて木の枝も張り出して通過するのは危険と判断し焼山を断念し白屋辻に直接降りるコースへと戻る。995m付近では植林の切り開きで展望もよく大滝ダム湖や杉の湯温泉が見渡せ、日当たりも良くのんびりした気分になり例会談義に花が咲く。あとは白屋辻まで単調な尾根下りの不明瞭な道を白屋林道に出て白屋橋まで戻る。 記:杉本(康)</p>									
連番	760	例会No.	OP243	内容	熊野参詣道小辺路	実施年月日	2017/5/20~23	担当者	西村(晶)	
参加者	西村晶、小川眞裕美、安岡和子、安本昭久、安本嘉代、脇本勇二、小椋美佐、保木道代、江本恭子、有永寛							参加者数	10	

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	江戸時代の初期にかけて極楽浄土を求め熊野信仰の参詣道として大いに賑わった道を熊野古道と言われ、高野山と熊野本宮を結ぶ参詣道が小辺路と呼ばれています。熊野詣の道として多くの巡礼者が行き交いました。十津川や高野山の日常物資である塩や米、味噌やお茶などを馬で運ぶ輸送路として、生活を支える道路として大いに賑わっていたでしょう。伯母子峠(1246m)・三浦峠(1080m)・果無峠(1114m)3つの峠を越えなければ到達出来ない山岳ロングルートです。完走の為に準備も行いました。平素のトレーニングも重要です、例会時に10Kgの荷物を担いでトレーニングを行い、装備の軽量化とコンパクトに荷物をまとめる為に装備表に重量表示を行いリュックの重さを10Kgまでに抑える指示をいたしました。荷物が軽くなれば身体の疲れも軽減でき、転倒、滑落などの事故のリスクを減らす事が出来ます。不安だからと食料、衣類等を多く持つ事により荷物が大きく重くなり身体が疲れてのトラブルも多くなります。今回の経験を活かして次の山岳ロングルートに挑みましょう。歩行距離(脇本さんのデーター82.6Km)、所要時間は26時間30分、全員がよくがんばりました、充実した楽しい山行でした。 記:西村(晶)									
連番	761	例会No.	一般507	内容	(ベーシック登山No.41)「緊急時対策」集中講習会	実施年月日	2017/5/21	担当者	野原、小椋(勝)	
参加者	野原勇、小椋勝久、杉本栄子、和田敬子、西村美幸、黒澤百合子、神阪洋子、青木義雄、西口麻衣子、梅田寛子、寄川都美子、村木とも子、村木正人、板谷佳史、翁長和幸、小杉美代子、岸田暎子、佐藤敏							参加者数	18	
担当者コメント	今日は山を目指さない例会。今回の例会を考えたきっかけは、私の登山経験から安全登山はリーダー、メンバー双方共に緊急時対策を知らなければ成し遂げられないと感じていたことにあります。私が担当する例会の際に休憩時間を利用してワンポイント指導を時折実施してきましたが、ワンポイント指導では消化不良感を解消できずにいました。思い切って山から離れ1日をすべて緊急時対策講習に充てようと考えた次第です。今回使用した資料自体は昨年1月に一応完成していましたが、その後作成した読図資料を元にした読図講習を先行実施。安全登山にとっての重要度を考えたとき、必然的に読図となりました。まだ充分ではありませんが、例会時に地図を開くメンバーが増えるなど以前と異なり多くのメンバーに読図についての意識が高まったように感じます。午前中は登山計画書作成に始まり必携装備、迷った時に取るべき対処、熱中症、低体温症、雷対策、心肺蘇生について実践講習。午後からは止血処置、骨折、捻挫、搬送方法、窒息時対応、三角巾やレジャーシートを使った固定、その他登山に役立つ物品、ツェルトの使い方、ビバーク、団体登山のリスク、危険地帯通過方法、ヘリ救助対応、シュリングを使った簡易ハーネス作成・・・等々盛りだくさんな講習を行いました。一つひとつの講習内容についてのコメントは控えますが、そのどれもが万が一の際には他人事ではなく自分自身を、仲間を助けることに繋がる内容です。今回の講習が一過性の行事とならないよう今後私の担当する例会時には随時復習していきたいと思っています。今回の資料は昨年1月に一応完成していたものですが、その後救急法講習会や、現役救命救急医の講演、ヘリ救助隊員の講演、書籍、インターネット、TVなどを通じて得たものを取り入れたり、削除したりするなど今回の例会直前まで資料補正に取り組んできました。講習会終了後懇親会を行いました。当初はせめて半分ぐらい集まってくれたらいいかなと思っていましたが全員参加。例会時の短い時間では話せないことを語り合うなど有意義ではと思った次第です。参加メンバーの方々ありがとうございました。 記:野原									
連番	762	例会No.	一般508	内容	六甲・住吉川源流	実施年月日	2017/5/28	担当者	大石、杉本(康)	
参加者	大石隆生、杉本康夫、板谷佳史、佐藤敏子、岩本和行、脇本勇二、大森朋江、小椋美佐、黒澤百合子、寺島直子、小川眞裕美、保木道代、山倉康次、安本昭久、安本嘉代							参加者数	15	
担当者コメント	明治の初期に有馬への道として整備されたけれども、今はハイキング道として親しまれている住吉川左岸の住吉道(有馬道)を辿っていく。全体的には山腹を捲く道だが、何回かは流れに近づく。所どころに石畳があったり石標が転がっていたりと、古道というほどではないがそれなりに歴史を感じさせられる。最高峰へ向かう七曲りの取付きを過ぎ黒岩谷に入ると、堰堤越えと谷歩きとなる。踏跡を辿っているうちにおこもり谷との分岐を見過ぎてしまい黒岩谷をつめることになり、両側から覆い被さる熊笹とその花粉に悩まされながら後鉢巻山のトンネルの東側に出してしまう。石の宝殿を経て蛇谷北山で展望を楽しみ、以前に比べて歩き易くなった尾根道を土樋割峠へと下り、バスの時刻に余裕があるので三々五々という感じでバス停に向かい解散とする。 記:大石									
連番	763	例会No.	一般509	内容	京都・北山・箕ノ裏ヶ岳+アルファーNo.21「岩倉具視幽棲旧宅見学」	実施年月日	2017/6/4	担当者	紀伊栞本(節)、大石	
参加者	紀伊栞本節雄、大石隆生、秋田文雄、小原武尚、上原進一、青木義雄、牛山恵美子、梅田寛子、池田えり子、和田敬子、保木道代、野口秀也、小川眞裕美、佐藤敏子、寄川都美子、駒井万生子、西村美幸、板谷佳史、横山寿夫、安本嘉代、和田良次、安本昭久、寺島直子、西村晶、紀伊栞本博美							参加者数	25	
担当者コメント	楽しいハイキングにもう一つ楽しみを加えた例会、それが+アルファーと云う例会です。これまでかなりの回数を重ねてきましたが、当初からもっぱら食いしん坊の食べ歩きが続いてきました。ところが、近頃は文化史跡の類に移りつつあります。それは多分、担当者のお歳のせいかもしれません。それとも遅まきながら大人の成熟というものでしょうか、ともあれこのまま流れに任せて行くかと思えます。今日のボランティアガイドさんは美しい素敵なお婦人でした。岩倉具視卿のことを具視さん、具視さんと親しげに語っておられました。岩倉の地名は具視さんの棲家から出たものでしょうか、それとも地名岩倉が先に在ったのでしょうかと、まずクイズから始まりました。面白い設問です。私はたちまち具視さんに親しみを覚えました。時代は巡ります。昭和初期の女優小桜葉子さんの曾祖父は具視さんでした。とすると加山雄三さんは具視さんの玄孫(やしやご)五代目ということになります。歴史への興味や関心はこんなところから始まるものだと思います。如何でしょうか。 記:紀伊栞本(節)									
連番	764	例会No.	一般510	内容	武奈ヶ岳～釣瓶岳	実施年月日	2017/6/11	担当者	小椋(勝)、板谷	
参加者	小椋勝久、板谷佳史、寄川都美子、安本昭久、脇本勇二、村木正人、村木とも子、小椋美佐、安本嘉代、保木道代、小川眞裕美、小杉美代子、江本恭子、安岡和子、神阪洋子、佐藤敏子							参加者数	16	

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>堅田駅に降りると登山客で大賑わい、バスの座席確保で急いでバス停に行くが、臨時便が出て一安心、バスに揺られ一時間程度で坊村に着き挨拶を済ませ、早々に歩き始める。坊村から御殿山までは急登の連続、その上に帰りのバスの時間を考えると休憩も短くし先を急がなければならないため少し不安になるが皆さん頑張ってくれました。その急登を登りきる御殿山あたりから花が多く見られる様になる。花の道を過ぎ西南稜に出ると京都、福井、滋賀のパノラマ広がり疲れも何処へ行ってしまおう。武奈ヶ岳で短い昼食をとり釣瓶岳に向かう。ここからはあまり人にも会わない。新緑の中足取りも軽く釣瓶岳へ。釣瓶岳へは予定時間より15分早く着き、後は下りのみ。これなら下山後タクシーを呼ばなくても済みそうだと考える。釣瓶岳を少し下ると湖北のパノラマが広がり風も心地よく気持ち良いのか青空の下、ワイワイガヤガヤと相変わらずの話声、この景観を楽しんでいるのかと思いつながりながら歩く。イクワ峠を過ぎると樹林帯の中に入って行く、まばゆい新緑の中を歩き地蔵峠へ、地蔵峠で帰りのバスを4時はあきらめ5時台のバスにする旨を伝える。新緑の横谷峠から畑の集落へ下り棚田の中をバス停へ向かうが、神社を過ぎたあたりで4時のバスに乗れそうな気配、皆速足でバス停に向かう。バス停に着くとバスがちょうど着いたところだ。バスに駆け込み近江高島駅に向かい近江高島駅で解散する。 記:小椋(勝)</p>									
連番	765	例会No.	一般511	内容	紀州・飯盛山	実施年月日	2017/6/18	担当者	小椋(勝)、西村(晶)	
参加者	小椋勝久、西村晶、青木義雄、寄川都美子、和田良次、和田敬子、村木正人、村木とも子、牛山友幸、牛山恵美子、藤田喜久江、梅田寛子、前田守、上原進一、片山純江、池田える子、脇本勇二							参加者数	17	
担当者コメント	<p>JR名手駅で挨拶をすませ麻生橋を渡り農道に入っていくが農道は網の目のように張り廻らしているため正しい道がわかるか不安になりながら茶臼山へと向かう。案の定、茶臼山へは迷いながらの行程、やっとの思いで見つけたが藪で覆われていて進むこともできない、他の道を探すがどれも途中で行き止まりになっている為断念し飯盛山からの帰路を登ることにする。しかしこの道も複雑で引き返しては登りの行程、やっとの思いで正しいと思われる道を見つけ進むが蜂の巣を踏み3番手の人が数か所刺されることになる。歩く事が出来るか確認し山行を中止し下山する。途中大事をとり救急車を呼び、病院まで搬送してもらった。おかげで悪化することもなく翌日に普段通りの生活に戻ることができました。 記:小椋(勝)</p>									
連番	766	例会No.	一般512	内容	和泉山地・南葛城山(922m)	実施年月日	2017/6/25	担当者	西村(晶)、杉本(康)	
参加者								参加者数		
担当者コメント	雨天中止									
連番	767	例会No.	OP244	内容	比良・口ノ深谷廻行	実施年月日	2017/6/25	担当者	板谷、大石	
参加者								参加者数		
担当者コメント	雨天中止									
連番	768	例会No.	一般513	内容	天ヶ岳、翠黛山	実施年月日	2017/7/2	担当者	小椋(勝)、野原	
参加者	小椋勝久、野原勇、青木義雄、寄川都美子、和田敬子、神阪洋子、村木とも子、村木正人、小椋美佐、小川眞裕美、渡辺健、脇本勇二、横山寿夫、江本恭子、梅田寛子							参加者数	15	
担当者コメント	<p>出町柳から叡山電鉄に乗り換え鞍馬駅で下車、鞍馬駅から鞍馬街道を少し北に上がり東へと曲がる地蔵寺手前の広場で挨拶を済ませ葉王坂に向かう。登山道は昨日の雨で少しジメジメしている為ヒルの隠れ家に最適だと思いつながりながら歩いていくと、やはり後ろの方でヒルがいるとの声が聞こえてくる。先頭はあまり見かけないが後方はよく見えるらしい、振動とかで出てくるのかな葉王坂で休憩しヒルに対する注意点など話した後、P525mに向かう。525mのピークまでは延々と上り坂が続く上に蒸し暑い、汗をかきながらの登攀になる。ピークまではあと少しのところまで疲れている人も出てきたので水分補給をする。少し休み、歩き始めるとP525m(戸谷峰)に着く。これやったら此処まで頑張ってもらったら良かった、と反省するが仕方ないのでここで荷物を降ろし座っての休憩をする。十分休憩ができたのでP622mに向かう。P622mを地図で確認しながら歩くが見当たらない、地図上ではピークを踏むようになっているが少し東を歩いているようだ。天ヶ岳手前で昼食をとり天ヶ岳は通過する。ここからは下るだけ、途中休憩を取った頃から雲行きが怪しくなり雷が鳴り始めてポツポツと降り出したと思えば土砂降りに、雨傘をさすが役に立たない。やっとの思いで寂光院に着きトイレで着替えていると足にヒルが！俺一人か？と思いつながりながらヒルを取る。雨はまだ降っているがバスの時間も気になるので急いで大原の里をバス停へ向かう、バス停へ着くと他のお客さんと一杯、臨時便などと考えていると1台のバスが来てあわてて解散しバスへ乗車しました。 記:小椋(勝)</p>									
連番	769	例会No.	一般514	内容	伊勢山上	実施年月日	2017/7/9	担当者	板谷、杉本(康)	
参加者	板谷佳史、杉本康夫、小川眞裕美、保木道代、小椋美佐、小杉美代子							参加者数	6	
担当者コメント	<p>松阪周辺の山としてかつて矢頭山、堀坂山等に例会があつて、いずれも岩っぽい山である。伊勢山上は、山名通り役ノ行者修行の場というだけに本格的なクライミング気分が味わえる私好みの山として取り上げました。近畿周辺の天気予報は雨の確率大とあつてか少ない参加者、ただし東海地方に属する伊勢方面はどんより曇つてはいたが終日降ることはなかったので今回もラッキーな例会となりました。登山口の飯福田寺境内への階段を登り始めると寺の人から大声で呼び止められて入山料の請求が有り、一人500円也のお布施。表行場を登り始めるとまず最初に油こぼしの岩場をクサリに頼つてこなすと次が地形図にも名前の載る「行者岩」、巨大なハンク下に本尊を祀る岩室に出る。この鐘掛岩の登攀がこの行場の核心部だ。念のためロープを使用して全員直登した。静かなハイキングも良いが、全身を使つてのクライミングで岩場のトップに立った時の気分はやはり爽快だ。鐘掛岩の直登でだいぶ時間を費やしてしまったので続く簡単な岩場を足早に通過して最高点の大天井に着いてしばらく休憩、後半部の岩場へ向かう。亀岩、鞍掛岩、蟻ノ戸渡り、小尻返し、平等岩等といった岩場を楽しく通過して元の飯福田寺に戻る。大休止の後、裏行場へ・・・こちらはスケールも小さく2ヶ所ほどクサリ場があるものの30分ほどで一周した。その後帰りのバス時刻を気にしながら車道を急ぐこと約50分、ちょうど良い時間にバス停に着いた。 記:板谷</p>									
連番	770	例会No.	一般515	内容	大峰・柄ヶ山、櫃ヶ岳	実施年月日	2017/7/16	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	
参加者	杉本康夫、小椋勝久、神阪洋子、寄川都美子、寺島直子、大森朋江、馬場美穂子、青木義雄、村木正人、村木とも子							参加者数	10	

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>櫃ヶ岳は大淀町方面から眺めると唐櫃の形に似ているといわれていて、枳ヶ山から櫃ヶ岳の間は地図上も、歩いてほとんど起伏のない道が続いてそれが実感できる。下市口駅に着くと3連休の中日なのにたくさんの人、人、人、…。タクシーもいつも以上に止まっていて予約客を待っている。バスも臨時便を出してもらったおかげで座ることが出来た。このような混雑ぶりは久しぶりに見る光景です。長谷バス停からの道脇にはもう萩の花が咲き始めている。古いがしっかりしている標識に従って登って行くと里山のように右側から道が何本か合流する。枳ヶ山手前で地図にはない健脚向き直登コースが出てくるが、地図通りの道を行く。枳ヶ山山頂は三角点があるものの木が茂って狭く樹間から大峰の山々がわずかに見える程度なので、早々と出発する。やすらぎ村キャンプ場への分岐から鳥居をくぐっていくと八幡神社に到着する。その背後が頂上で大峰の山々が見渡せ弥山川パーティの話題も出てくる。八幡神社の前が広場状になっていてここで昼食とする。ここから地藏石仏の祠のあるところまで、登山道の右側がナイロンの紐が張られていて松茸立入り禁止の紙がいたる所に張られている。ここまでは樹林帯で暑さもしのげたが、舗装道路に出ると梅雨明けを思わせる日差しに暑い思いをしながら下山予定の十日市の集落に無事到着しました。 記:杉本(康)</p>									
連番	771	例会No.	OP245	内容	大峰・弥山川・双門コース	実施年月日	2017/7/16~17	担当者	山倉、板谷	
参加者	山倉康次、板谷佳史、小椋美佐、小杉美代子、保木道代、小川眞裕美、安岡和子、脇本勇二、江本恭子								参加者数	9
担当者コメント	<p>以前、一般登山者にとって弥山川ルートは危ないコースのように思われていたようですが、昨今入山者も多く常にルート整備がなされている様です、沢通しの遡行となるとクライマーの世界ですが、大雨や風雨災害に遭遇しない限り、溪谷の美しさや沢歩きの楽しさを味わえる身近なルートではないでしょうか。</p> <p>7月16日(快晴) 近鉄下市口駅で予約タクシーに分乗して天川熊渡へ向かう、熊渡付近の林道では川遊びや釣りの車で渋滞に遭遇しましたが9時に下車、9時15分出発しカナビキ尾根分岐まで林道を辿る、この尾根はマイカー利用時の熊渡への下山路として利用されているようです。ここから左へしばらく下り弥山川が伏流した白川八丁へ出ます、音無し河原をしばらく歩くと流水が現れガマ滝に到着10時小休止を取る。数十年前完全遡行を目指して右岸の水平クラックにへばりついた記憶が思い出されます。ここから右岸巻道が始まり、滑りやすい木製栈橋、階段、鎖のスラブ、朽ちた鉄階段と続きいったん左岸に渡渉し、一ノ滝まで水際のトラバースやちよつとした岩登り、巻道の繰り返して一ノ滝の吊り橋に11時55分到着小休止とする。ここから双門の大高巻が始まり、長大な鉄梯子や鎖場が続きますが、はしごや鎖場はよく整備され、少々息が切れますが快適に高度を稼いでいきます。13時20分、双門ノ滝、仙人岨が展望できるテラス着で大休止、大高巻はなお続きトサカ尾ザンギ平へ続く尾根上で終了します。ここで一息入れてから河原へ長い下降をし又一息、皆さん少々疲れ気味なようで、あとどのくらいかな～・・・河原小屋跡左岸の大崩落箇所は大石の上のケルンを頼りに進み、沢幅が狭くなってくるころ渡渉を繰り返して、空中鉄ハシゴ(登っているとブランコみたいに揺れます)を3m、続いて空中水平鉄ピン栈橋(どれも勝手に名付けました)を通過するころ大山レンゲを発見しました。水量が少なくなってくるころ吊り橋を渡って狼平避難小屋に18時到着、今日は9時間行動で、お疲れ様でした。</p> <p>7月17日(曇)少々ガスが出ています、6時50分重い荷物は小屋にデポして弥山往復に出かける。7時45分弥山着、記念撮影をし早々に下山開始8時30分狼平着。休憩後9時長い下山路に向かいます、休憩を1時間毎にとり、13時30分川合に下山しました。 記:山倉</p>									
連番	772	例会No.	一般516	内容	六甲・西山谷	実施年月日	2017/7/23	担当者	大石、板谷	
参加者	大石隆生、板谷佳史、駒井万生子、古松育代、江本恭子、小川眞裕美								参加者数	6
担当者コメント	<p>暑い日が続くこの時期、涼を求めて西山谷に入りました。足元は沢シューズではなくハイキングシューズでしたが靴を濡らすことをいとわないで流れの中に入り、へつり、滝横の登り、高巻きと沢登りと同じように楽しみました。渦森台の住宅地を通り抜け、登山道から西山谷へ。水量は少なく、苔で滑りやすいということもない。できるだけ流れから離れないために巻いたら直ぐに谷に戻ることにして、次々に現れる滝や堰堤を快調に、時にはルートに迷いながら通過していく。この谷の最大の滝である西山大滝は右岸を滝横から登れそうだが出口がハングしている。先程の第5堰堤の高巻きの鎖場で手間取ったことから右岸を高巻く。枝谷にある有名な赤レンガ色の第7堰堤は捲き道を辿ればその基部を通過することになるのだが、本流を詰めたため見ることはなかった。愛情の滝と呼ばれる滝を右岸から登り、その上流の巨岩が重なる間を流れる滝を眺めた後、左岸の斜面を登り笹の中の踏み跡を辿ると天狗橋の東側の車道に飛び出した。車道を暫く歩いて天狗岩へ。夕方までにはまだまだ時間があるのにカナカナと鳴き出したヒグラシの声を聞きながら天狗岩南尾根を渦森橋のバス停へと下り、住吉駅で解散とする。 記:大石</p>									
連番	773	例会No.	OP246	内容	北ア・黒部峡谷(剣沢～池ノ平～仙人池～水平歩道)	実施年月日	2017/7/26~31	担当者	野原、板谷	
参加者	野原勇、板谷佳史、安岡和子、小杉美代子、小椋美佐								参加者数	5

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者 コメント	<p>今回例会最大の目玉とした水平歩道の一部が崩壊して通行できないという情報を1週間余りに把握、何度も現地の山小屋4軒に連絡を入れ情報を集めた結果、水平歩道の大大鼓付近が10m程度崩落している模様。垂直の岩壁に刻まれた登山道が崩落となっては対処の術がない。まったく夢にも想定しなかった事態だ。ただ最新の情報がどうしても確認できない。関西電力の水平歩道整備に淡い期待を持って大阪を出発した。</p> <p>7/26 2年前の剣岳登頂メンバーが再度集結、高速バスで富山を目指す。</p> <p>7/27 室堂で登山指導員に登山届の提出を促される。事前に把握していた通り、水平歩道は一部崩落して通行不能が継続しており、復旧の見通しは立っていないとのこと。水平歩道通行日程に大きく「×」印を記入される。今回例会において最大の推奨ポイント、参加メンバーに歩いて欲しかった、感動して欲しかった、楽しんで欲しかった地点を歩けないことが決定。残念の一言に尽きます。小雨の降る室堂を出発。剣御前小舎を通り過ぎ、剣沢小屋を経て剣沢に入る。例年の今頃なら雪渓が続いている箇所が口を開けている。7月中にこんな雪の少ない雪渓は私の経験では初めてだ。地球温暖化の影響だろうか、年々剣沢の残雪が減っているように感じる。長大な剣沢を下り、ほぼ見込んだ時間帯に真砂沢ロッジ到着。一名体調が悪く、夕食を摂ることもできない。</p> <p>7/28 体調悪かった一名も回復。昨夜はこのまま翌朝まで体調が回復しなければこの小屋に残ってもらうことも考えていたがセーフ。池ノ平へは当初予定していた北俣が雪渓の状況が悪く仙人新道経由に変更。この仙人新道は北俣に雪が十分にあれば、個人的には歩きたくない急登が続くコース。今回この計画をこの時期に設定した理由も、北俣に十分な残雪があると読んでのこと。読みが外れてしまった。途中仙人池に立ち寄る。仙人池前のベンチに座っていると仙人池ヒュッテからお茶の接待を受ける。この小屋はいつもこんな感じだ。「仙人池のおばあちゃん」と多くの登山者から慕われた先代の教育だろうか。リピーターが多いのも仙人池に映る裏剣の景色だけでなく、このようなきりげない「おもてなし」があるからだろう。目の前に広がる仙人池とハツ峰を十分に楽しんだ後、池ノ平小屋に向かう。池ノ平小屋の管理人も代わっていたが、相変わらず気持ちのいい小屋だ。ただ従来は管理人以外に2人、多い時は4人以上のボランティアの応援で維持していた小屋をたった1人で守っているとのこと。夕食後、管理人と山小屋のあり方を話しながら2人で焼酎を酌み交わす。寝ていると強く、弱く雨が屋根を打つ。</p> <p>7/30 今朝はゆっくりと朝食を楽しみ、8時頃に出発するつもりだったが小屋従業員に急かされ6時前に朝食。剣沢小屋6時50分頃に出発となった。剣岳頂上は雲に隠れて見えない。剣御前小舎、雷鳥沢を経て室堂到着。「立山玉殿の湧水」前で今回の例会を解散とした。今回はピークをひとつも踏まない山行、水平歩道崩壊という予期しない事態発生のため当初予定していた池ノ平～雲切新道～阿曾原温泉小屋～水平歩道～樺平をカットせざるを得なかった山行となってしまったが、雪は十分楽しめたのではないかな。EPEクラブで今回のように連日長時間雪の上を歩くことはない。参加メンバーから、次はこの山を、このコースを歩きたいという希望がありました。希望に沿う、沿わないは別にしても、私自身「心を熱くする山」をもっと登りたいと感じた山行でした。 記:野原</p>																																				
	<table border="1"> <tr> <td>連番</td> <td>774</td> <td>例会No.</td> <td>一般517</td> <td>内容</td> <td>泉南・昭和山～四石山</td> <td>実施年月日</td> <td>2017/7/30</td> <td>担当者</td> <td>杉本(康)、西村(晶)</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td colspan="8"></td> </tr> <tr> <td>担当者コメント</td> <td colspan="8">雨天中止</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td colspan="8"></td> </tr> </table>	連番	774	例会No.	一般517	内容	泉南・昭和山～四石山	実施年月日	2017/7/30	担当者	杉本(康)、西村(晶)	参加者									担当者コメント	雨天中止								参加者数							
連番	774	例会No.	一般517	内容	泉南・昭和山～四石山	実施年月日	2017/7/30	担当者	杉本(康)、西村(晶)																												
参加者																																					
担当者コメント	雨天中止																																				
参加者数																																					
担当者 コメント	<table border="1"> <tr> <td>連番</td> <td>775</td> <td>例会No.</td> <td>一般518</td> <td>内容</td> <td>大峰・百貝岳</td> <td>実施年月日</td> <td>2017/8/6</td> <td>担当者</td> <td>杉本(康)、小椋(勝)</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td colspan="8">杉本康夫、小椋勝久、寄川都美子、寺島直子、板谷佳史、西村晶、西村美幸、小川眞裕美、村木正人、村木とも子、小椋美佐</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td colspan="8">11</td> </tr> </table>				連番	775	例会No.	一般518	内容	大峰・百貝岳	実施年月日	2017/8/6	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	参加者	杉本康夫、小椋勝久、寄川都美子、寺島直子、板谷佳史、西村晶、西村美幸、小川眞裕美、村木正人、村木とも子、小椋美佐								参加者数	11												
	連番	775	例会No.	一般518	内容	大峰・百貝岳	実施年月日	2017/8/6	担当者	杉本(康)、小椋(勝)																											
参加者	杉本康夫、小椋勝久、寄川都美子、寺島直子、板谷佳史、西村晶、西村美幸、小川眞裕美、村木正人、村木とも子、小椋美佐																																				
参加者数	11																																				
<p>百貝岳は、百螺岳とも鳥栖(とりすみ)山と呼ばれ、その昔天皇の勅命を受けた理源大師が箱屋勘兵衛を伴い法螺貝を吹き鳴らし大蛇を退治したことから百螺岳と呼ばれるようになったそうです。鳳閣寺には法螺貝と、退治した大蛇の骨と伝えられる動物の骨が保管されているといわれます。台風5号が日本の南岸にあって不安定な天候が気になっていたが、雲が時々出る程度で夏のまですずの登山日和となりました。今回のルートは黒滝村のハイキングコースとして紹介されているところを黒滝川沿いに進むものです。標識も整備されていて、のんびりと歩くことができます。稜線まで登ると木立の間から百貝岳や鳥住の集落が望めます。地蔵峠では地蔵堂と昔の茶屋跡があり地蔵菩薩に捧げる清水が湧き出て東屋や広場もあり気持ちのいい所なのでここで昼食休憩とします。ここからは車道を歩くことになり、車道が終わったところが鳳閣寺で手入れが行き届いていて、立派な展望台もあり遠くに蔵王堂や金剛・葛城・生駒の山々が見渡せます。百貝岳の頂上へは2ルートあり私たちは国の重要文化財に指定されている理源大師廟塔・箱屋勘兵衛の墓を通るルートを選びました。百貝岳山頂は展望はきかないが、休憩できるようきれいに清掃されています。ここから40分ほどで大峰奥駈道を経て金峰神社に到着しケーブル駅にて解散しました。ケーブルの車両が故障のため吉野駅まで代替のバスが運行されていました。 記:杉本(康)</p>																																					
担当者 コメント	<table border="1"> <tr> <td>連番</td> <td>776</td> <td>例会No.</td> <td>OP247</td> <td>内容</td> <td>大峰・下多古川本谷廻行</td> <td>実施年月日</td> <td>2017/8/13</td> <td>担当者</td> <td>板谷、大石</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td colspan="8">板谷佳史、大石隆生、小川眞裕美、駒井万生子、村木とも子、山倉康次、古松育代、江本恭子、前田守</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td colspan="8">9</td> </tr> </table>				連番	776	例会No.	OP247	内容	大峰・下多古川本谷廻行	実施年月日	2017/8/13	担当者	板谷、大石	参加者	板谷佳史、大石隆生、小川眞裕美、駒井万生子、村木とも子、山倉康次、古松育代、江本恭子、前田守								参加者数	9												
	連番	776	例会No.	OP247	内容	大峰・下多古川本谷廻行	実施年月日	2017/8/13	担当者	板谷、大石																											
参加者	板谷佳史、大石隆生、小川眞裕美、駒井万生子、村木とも子、山倉康次、古松育代、江本恭子、前田守																																				
参加者数	9																																				
<p>下多古のバス停から1時間以上の炎天下の林道歩き、車での入山者も少ないのか林道の奥は倒木で塞がれたままだった。案内では下多古川を下部から廻行としていたが、困難度や所要時間を考慮して一般的な琵琶平から上部の廻行に変更しました。琵琶平からすぐに入谷、いくつかの5～15m程度の滝や美しいナメ滝を遡って行く。最初は恐る恐る流れに入っていた初心者の方も次第に慣れてこられたようで、楽しく涼しい時間を過ごす。熊山ノ渡瀬と呼ばれる場所で遊歩道の吊り橋に出会う。ここから時間稼ぎのためしばらく遊歩道を辿る。途中滝見台の東屋があり琵琶滝50mが遠望できる。琵琶滝の落ち口へ向かいそこでしばらく遊ぶ。更に上部へ向かうがオーバーハングした大きな崖を目の前にして少し物足りないが、引き返すべき時間が来てしまった。今後ともE. P. E. クラブの手に負えて楽しめる範囲の谷を探して沢登りシリーズを続けたいと考えています。 記:板谷</p>																																					
<table border="1"> <tr> <td>連番</td> <td>777</td> <td>例会No.</td> <td>一般519</td> <td>内容</td> <td>六甲・仁川から奥池</td> <td>実施年月日</td> <td>2017/8/20</td> <td>担当者</td> <td>大石、杉本(康)</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td colspan="8">大石隆生、杉本康夫、西村晶、寄川都美子、江本恭子、小川眞裕美、保木道代、黒澤百合子</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td colspan="8">8</td> </tr> </table>	連番	777	例会No.	一般519	内容	六甲・仁川から奥池	実施年月日	2017/8/20	担当者	大石、杉本(康)	参加者	大石隆生、杉本康夫、西村晶、寄川都美子、江本恭子、小川眞裕美、保木道代、黒澤百合子								参加者数	8																
連番	777	例会No.	一般519	内容	六甲・仁川から奥池	実施年月日	2017/8/20	担当者	大石、杉本(康)																												
参加者	大石隆生、杉本康夫、西村晶、寄川都美子、江本恭子、小川眞裕美、保木道代、黒澤百合子																																				
参加者数	8																																				

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

担当者コメント	お盆を過ぎて心持ち涼しくなったと思っていたら振り返したような猛暑で、強い日差しにうんざりするのと木陰の道になってホッとすることを繰り返しながら仁川に沿って歩き、支流の大藪谷を遡りました。仁川駅の南から河原と道路を歩き、地すべり資料館の下へ。V字谷の仁川峡谷に入り、流れを見下ろしながら江戸時代に造られたという用水路に沿った踏み跡を辿っていく。頭上を送電線が横切る辺りで水量が少ない流れを飛石伝いで左岸に渡り、ハイキングコースを広河原へ。ここからも川沿いを歩きたかったが途中でゴルフ場を通り抜けることになるので、この部分だけはやむなく北山貯水池を経て甲寿橋まで遠回り。炎天下の舗装道路歩きとなる。甲寿橋からは再び川沿いの道路となり、日陰を拾うように大藪谷の取付きへ。大藪谷に入ると木陰が続く道となり日差しから解放され、蟬の声に交じる流れの音に涼しさを感じる。しかしそれも東の間、谷筋から離れるとやはり暑い。やっとの思いで登山道を登りつめて奥山貯水池に着き、奥池集会所前のバス停に下って解散とする。 記:大石								
連番	778	例会No.	一般520	内容	飯道山~大納言山	実施年月日	2017/8/27	担当者	小椋(勝)、野原
参加者	小椋勝久、野原勇、安本嘉代、安本昭久、寄川都美子、神阪洋子							参加者数	6
担当者コメント	JR貴生川駅を下車、挨拶を済ませ快晴の空の下 柚川橋を渡り県道から町道に入る。貴生川小学校横を通りしばらく里道を歩く、飯道寺を過ぎ日吉神社に着く神社で休憩後登山口へと向かう登山道に入りしばらく歩くと貴生川分岐につく、ここからは谷筋に沿って歩くので心地よい風が吹いてくる 快適だ。不動の滝群を過ぎしばらく歩くと道が荒れているとの注意書きが有り 尾根道で迂回するか考えたがそのまま進むことにした。最近の豪雨で鉄砲水が出たのか石が露出し歩きにくいとそれほど苦労もなく東休憩所に着くことができた。ここから直登で飯道山に着くが急登だ、息を切らせながら10分程度で登ることができた。頂上からは三上山、琵琶湖を望むことができ木陰で昼食を取り飯道神社に向かう飯道神社を見学後、飯道山に戻り頂上から大納言山を見ると遠い！行けるのかと思うが気を取り直し大納言山へ向かう。山頂の大納言山への分岐には上級者向きと書いてある。どんな道なのかと考えると歩き始めるとなかなか手ごわい。誰も通っていないようで 倒木、登山道の崩壊など多く有りロープも多く張り巡らされている。やっとの思いでオシゲジゾウ峠に着く、ここでこの先の道の状態と時間を考え下山することにした。通って来た登山道は阿星山までの縦走路で面白い、今度はじっくり計画を練り縦走をしたいものだ。オシゲジゾウ峠から荒れた林道を歩きゴルフ場の横を通り宮町から紫香楽駅に向かう予定でしたが道を間違えて雲井駅まで歩いてしまいました。雲井駅で解散し帰途につきました。 記:小椋(勝)								
連番	779	例会No.	OP248	内容	東北・飯豊山	実施年月日	2017/9/1~5	担当者	板谷
参加者	板谷佳史、杉本康夫、小川眞裕美、小椋美佐、前田守、安岡和子、脇本勇二、江本恭子							参加者数	8
担当者コメント	9/1 予定のサブリーダーが集集場所に来てみたら持病が悪化したと急きょ参加を見合わせ。他に男性3名のメンバーがいるので手伝ってもらえば実施には問題ないと判断する。夜行バスに乗り込み明日に備えて早々に就寝。 9/2 夜行バスは早朝に新潟着だが、すぐの接続が無く列車とタクシーを乗り継いで飯豊温泉の登山口を出発したのは11時である。尾根上のピーク梶川峰(1692.2m)まで苦しい急登が連続する。それを過ぎるとようやく傾斜が緩み樹林帯が切れ明るい稜線を行くようになる。今日から明日にかけ台風15号が太平洋側を北上するため、雨を心配したがここはかなり西に外れているので雲低く風は強いが影響は少なかった。ブロックが見られる雲の上に出る頃、飯豊本山まで見通せる天気回復した。今夜の宿泊地門内小屋には十分明るいうちに到着できて上出来の初日でした。管理人に歓迎して頂き、他にパーティは無く我々の貸し切り状態。管理人が滞在しているので嬉しいビールを入手できました。(超高価!!500mlが1000円) 9/3 昨夜台風が一番接近したらしく夜を通してかなりの強風が吹き続け、寒い一夜だった。朝は視界無しガスの中、防風対策をして出発するが次第に視界も晴れてくる。台風は離れつつあるようだ。長い縦走路を門内岳、北股岳、梅花皮(かいらぎ)岳、烏帽子岳、御西岳、駒形山と一つ一つ登り降りを通り過ぎて行くのはつらいが、振り返れば楽しいものだ。14時頃ようやく待望の飯豊本山に登頂した、ここまでなかなか手応えのある縦走であった。山頂からしばらく降れば今夜の宿泊地本山小屋、我々以外3名の宿泊者と他にテント2張り。昨日から今日、台風を避けたのか登山者とはほとんど会わなかった。日曜には管理人は下山してしまうので居ない。 9/4 夜は満天の星空、快晴の朝を迎えた。下山先の川入からのアクセスバスに乗るべく下山を急ぐが、種蒔山、三国岳、地蔵山と根気強く越えていかねばならない。今日は台風一過の好天とあって、登って来る登山者も多い。最後の長い尾根の下降をがんばって川入登山口のバス停には余裕をもって降り着きました。 昨年の朝日連峰と同様、避難小屋はよく整備されているが全て宿泊装備、食料は持参せねばならず安易な登山は出来ない。それだけに登山本来の実力が試される山城だ。今回は台風通過ということもあってか、出会った登山者が少なかったこともあり余計にそのことを感じた。大阪からは交通不便であるが東北の山の魅力にはまっています。 記:板谷								
連番	780	例会No.	一般521	内容	京都・皆子山	実施年月日	2017/9/10	担当者	野原、西村(晶)
参加者	野原勇、西村晶、板谷佳史、安本昭久、渡辺健、小川眞裕美、安本嘉代、保木道代、飯尾廣子							参加者数	9
担当者コメント	今回の例会に選んだ皆子山は、40年ほど前に登った思い出の山。かすかに残る記憶には藪をかき分け登ったという思い出がなく、また今年発行の登山地図でもコースが実線で表示されていたため安易に計画をしてしまいました。 実施日を前に改めてコース状況をネットで調べると、3年前の台風で壊滅的被害を受け沢に架かる橋はことごとく流失、補修もなされず沢自体も渡渉の連続、谷沿いの林道も崩壊して立ち入り禁止とのこと。3年も前の台風被害が最新の登山地図にまだ反映しておらず、登るのであれば自己責任ということか。ネットでの記録を調べると「危険！」との記録続出、当日集まるメンバーの顔触れによって最終的にコースを決めることにした。その結果、地形図にも登山地図にも表示はないが、最も安全な東尾根を往復するコースに決定。 東尾根は平バス停から少し戻り橋を渡ってすぐの正教院裏手から登り始める。登山口から続く250mほどの急登は我慢で切り上げるのみ。その後はなだらかな登りが続き皆子山頂上到着。帰りのバス発車時刻に合わせて頂上の直ぐ側で、緊急時対策講習を2時間実施。途中雨で一時的中断はあったがツェルトを使ったビバーク、心肺蘇生(人工呼吸、心臓マッサージ)を中心に実技講習。この2点だけで1時間以上をかけて体験してもらいました。心肺蘇生の重要性和救助者の疲労度合いがよく分かったと思います。その他雷対策、止血法、低体温症対策、脳卒中对策等を実技に口頭を交え説明。 今回の講習が一過性の講習とならないよう当分の間、私の担当する例会では心肺蘇生体験をしてもらうことにしました。その際には今回参加者は講師として活躍してもらいます。実際に他の人に教えてこそ身に付きます。安全登山のためにも、事故に直面してうらたえないためにも、一人でも多くのメンバーが心肺蘇生に対応できるようお互いに努力しましょう。 記:野原								
連番	781	例会No.	OP249	内容	剣岳北方稜線・赤谷山、中山	実施年月日	2017/9/16~18	担当者	西村(晶)、板谷

2017年度('16/11~'17/10)EPEクラブ活動報告

2017/10/E現在 板谷

参加者		参加者数		
担当者 コメント	雨天中止			
連番	782 例会No. 一般522	内容	湖北・墓谷山	
実施年月日	2017/9/24	担当者	杉本(康)、小椋(勝)	
参加者	杉本康夫、小椋勝久、神阪洋子、寄川都美子		参加者数	4
担当者 コメント	<p>墓谷山は木之本町と余呉町との境にあり、近江百山の一つで、杉野富士と呼ばれ端正な形をした山です。一般に〇〇富士と呼ばれている山は眺めるのは良いが急登がつきものです。墓谷山も急傾斜を直登するので結構しんどいものです。墓谷山登山口にはこれから通る南野寺の立派な石碑がありここから30分ほどで観音堂に到着しました。建立は桓武天皇の時代で十一面千手観音菩薩が納められているそうです。お堂の横より松や檜の針葉樹林帯を抜けて自然林の中を所々に張られたロープをたよりに高度を稼いで行きます。今日は天気も良く30度近くの気温で木立の中とはいえ結構汗が出る登りとなりました。頂上には三角点があり急登から解放され秋らしく涼しい風に吹かれてほっとします。北方には横山岳が大きくそびえ、金糞岳も遠望できます。ここから鳥越峠目指して下っていき、峠少し手前の小市川へ下る分岐が分かりづらく見落として鳥越峠まで下ってしまいました。登りなおして分岐を小市川へとトラバース気味に下っていくが、ルートは山仕事道のようなのでしっかりと見ていかないとすぐにルートから外れてしまいます。しかし付近をキョロキョロするとまたルートが見つかるという結構時間がかかりました。小市川は豪雨の影響であろうか川底がえぐられ、草も生い茂りルートがはっきりしません。川の流れに沿って下っていき、砂防ダムに突き当たった所から上の林道に出てコスモスの咲く中菅並南のバス停までのんびりと歩きました。バスは20分前に出たのでタクシーで木ノ本駅まで行き解散としました。記:杉本(康)</p>			
連番	783 例会No. 一般523	内容	六甲・有馬 白石谷	
実施年月日	2017/10/1	担当者	大石、野原	
参加者	大石隆生、野原勇、板谷佳史、江本恭子、小川眞裕美、脇本勇二、安本昭久、安本嘉代		参加者数	8
担当者 コメント	<p>数年前の豪雨による崩壊で登山道の一部が通行止めになっていて、大きく登って下ってから目的地への登りが始まるというコースでした。谷の中にもその痕跡の流木があちらこちらにあり、流木の積み重なりでダムのような所も。でも、堰堤は少なく、巻道を含め山道はしっかりしていて要所々には固定ロープもあって谷歩きが楽しめました。紅葉谷道のロープウェイ下駅から炭屋道の取付きまでの間が通行止めになっているので迂回路の魚屋道を登り、炭屋道を下って紅葉谷道へ。紅葉谷出合から白石谷に入り、小滝を登り、白石滝、白竜滝と巻き、大安相滝は滝横を登ってから固定ロープが垂れ下がった3mほどの岩場を腕力で登って越える。第5砂防ダムからは谷から離れ、最高峰から北西に延びる尾根を下部は少し苦しみながら、上部は快適に辿って最高峰の広場へ。ここからは歩き慣れた道で、七曲りから土樋割峠を越えてバス停へと下る。記:大石</p>			
連番	784 例会No. 一般524	内容	丹波・五台山	
実施年月日	2017/10/8	担当者	杉本(康)、西村(晶)	
参加者	杉本康夫、西村晶、村木とも子、前田守、板谷佳史		参加者数	5
担当者 コメント	<p>2014年の水害で岩瀧寺からの橋も流されたり独鈷の滝にも大きな被害が出たそうです。復旧工事が進み今は五台山に登れるようになっています。今回の美和峠からのルートは途中で瓦礫の中を行くような所や沢がえぐられている所もあり水害からの復旧にはまだまだ時間がかかりそうです。美和峠まで登ると突然鋼製の道路標識が現れ(町中にある道路標識です)山の中の登山道なのに「え〜〜」と驚きと違和感をもってしまいます。ここからは尾根道は「分水界の径」と呼ばれ尾根の西側は加古川から瀬戸内海に、東側は由良川から日本海に流れて日本の背骨を歩いているというような感じですが。鷹取山の山頂は切り開かれベンチも置かれて市島町の街並みが一望でき気分爽快です。ここからの下りは急降下でロープも数ヶ所にあり氷上槍と言われるのもうなずけるような急斜面です。小野寺山も山頂が切開かれていてここも展望が良い所です。五台山には文殊菩薩像も安置されて展望台からは氷上町の街並みとそれを取り囲むような山々が一望できます。1時間ほどで市島町の登山口に到着し弘法大師ゆかりの狸穴の名水でのどを潤しのんびりと秋の果実を探しながら鴨阪集落でタクシーを待ちました。記:杉本(康)</p>			
連番	785 例会No. 一般525	内容	播州西脇・無名峰そのII、P45 9m	
実施年月日	2017/10/15	担当者	紀伊塾本(節)、西村(晶)	
参加者			参加者数	
担当者 コメント	雨天中止			
連番	786 例会No. 一般526	内容	大平山 賤ヶ岳の戦い第二弾 歴史探訪シリーズNo.37	
実施年月日	2017/10/22	担当者	小椋(勝)、板谷	
参加者			参加者数	
担当者 コメント	雨天中止			
連番	787 例会No. 一般527	内容	京都一周トレイルーI・東山前平部	
実施年月日	2017/10/29	担当者	板谷、小椋(勝)	
参加者			参加者数	
担当者 コメント	雨天中止			
一般例会(新年会含む) : 51回 / 652名		オプション例会 : 14回 / 144名		
例会合計 : 65回		参加者総数 : 796名		